

# タイからの学位留学生に奨学金

## 年間60万円、「ASEAN+3」コンソーシアム

### 三翠社(堺市)と合意、協定書に調印

本学と中堅塗装会社の三翠社(本社・大阪府堺市)は、タイからの留学生への奨学金制度を設けることに合意し、2月3日、本学中宮キャンパスで谷本榮子理事長と同社の嘉祥寺豊代表取締役が協定書に調印した。写真は、協定の期間は2月1日から10年間。

協定によると、本学が推進している「ASEAN+3」大学コンソーシアムの枠組みでタイから本学の3年次に編入する学位留学生が対象で、1人あたり年間60万円の奨学金を卒業までの2年間、三翠社が負担する。奨学生はコンソーシアムに参加しているバンコク大学の学生の中から同社が選考し、本学に推薦する。年1人を予定している。



三翠社はタイで新工場を稼働させることになっており、人材確保が課題。そのため、英語での授業に加え日本語も学べる本学のコンソーシアム事業に関心を示し、奨学金制度の設置が決まった。

調印式で谷本榮子理事長は「コンソーシアムは若いアジアの人たちを元気づけるのが狙いで設立しました。今回、奨学金制度ができ、三翠社さんの協力によってタイから優秀な学生を送ってもらえることになると大きな期待を寄せています」とあいさつした。

嘉祥寺代表取締役は、理事長の要請を受け、本学学生をインターン生としてタイ工場などで受け入れられるか検討したいとし、「今後、関西外大とより緊密な関係を築いていきたい」と述べた。

高校と教育連携し、多様な学びの場を提供することを目的に始まった「高大連携」事業の2011年度の実施概要が決まった。前年度に実施した①「TOEFLスキルアップ」プログラム②「メディアの達人養成」プログラム③「中国通」育成プログラム④「アミューズ」プログラム⑤「世界20か国で使えるスペイン語」に加え

セーデルテルン大学 (スウェーデン)と協定提携校333大学に

本学はスウェーデン・ストックホルム市のセーデルテルン大学と新たに単位互換協定を結んだ。本学の海外単位互換提携校は50か国・地域の33校となった。

セーデルテルン大学 1996年創立の新しい大学で、在籍学生数は約1万2000人



人。多様性、多文化教育、積極的社会参加——という3つの教育概念を軸に、人文・社会科学を中心とした分野での教育を展開している。70以上の学習プログラムがあり、開講科目は400以上。そのうち約80が英語で開講されており、約200人の留学生を受け入れている。

## 高大連携・今年度は6プログラム

①「カフェフランセ」プログラム②「ドイッの」ダシケ」プログラム③英語+1はドイツ語を、の2つを新設し、6プログラムを実施する。

④「カフェフランセ」プログラム⑤「カフ」プログラム⑥「ドイッの」ダシケ」プログラム⑦英語+1はドイツ語を、の2つを新設し、6プログラムを実施する。

①④は、春休み、夏休みを利用した春期コース、夏期コースの2回、新設の⑤、⑥は夏期コースのみ実施する。一定の基準を満たした受講者には、指定の学部学科・コース⑤は外国語学部スペイン語

①は外国語学部英米語学科、同スペイン語学科、国際言語学部②は国際言語学部国際メディア英語コミュニケーションコース③は国際言語学部中国語コミュニケーション

コース④は外国語学部

新規に「仏語」「独語」コース

①④は、春休み、夏休みを利用した春期コース、夏期コースの2回、新設の⑤、⑥は夏期コースのみ実施する。一定の基準を満たした受講者には、指定の学部学科・コース⑤は外国語学部

国際言語学部フランス語コミュニケーション⑥は国際言語学部ドイツ語コミュニケーション⑦は国際言語学部英語コミュニケーションの特別入試の受験資格が与えられ、入学後に本学の単位として認定する。

## 谷本義高・大学学長 北方工業大(中)から「名誉教授」受ける



中国・北京の北方工業大学(王曉純学長)から、谷本義高大学学長に「名誉教授」の称号が贈られた。授与式は9月8日に同大学であり、谷本学長は「双方の親密な関係を大切に育み、アジアの将来を担う国際人の育成により一層、力を入れたい」と決意を述べた。また、翌9日に訪問した天津外国語学院では、韓国の釜山外国語大学を加えた「3大学コンソーシアム構想」を提案、包括的な協定締結に向けて協議していくことで合意した。

谷本学長は中国交流センター所長の新衛衛教授らと9月7日から12日まで中国を訪問、本学の単位互換提携校である北京の3大学(北方工業大、北京語言大、北京吉利大)と、天津の2大学(天津外国語学院、天津理工大)を歴訪した。

## 天津外国語学院では 「3大学コンソーシアム構想」を提案

北方工業大学の名誉教授の称号授与式には約100人の教職員らが出席し、谷本学長を祝福した。王学長は祝辞で「交換留学生の派遣に加え、来秋からは双方の大学の学位を取得する2か年学位留学制度がスタートする。これを機会に、両大学の教育学术交流がさらなる飛躍をとげるものと確信している」と述べた。

昨年9月から1年間、第1期交換留学生として国際言語学部で学んだ黄金鑫君(日本語学科4年)ら3人も「感謝の気持ちでいっぱい」とお礼の言葉を述べ、「関西外大在中心」などの刺繍がある錦旗を谷本学長に手渡した。

新教授も同日、北方工業大学の客員教授に就任した。天津外国語学院に提案した「3大学コンソーシアム構想」は建学の理念を尊重しながら、大学間の教育・研究、および3か国の相互理解と友好、発展をめざして連携、協力するのがねらいで、将来的にはASEAN諸国の大学との交流も視野に入れていく。釜山外国語大学にも近く、提案する方向で調整している。

## 米国の1校加わり 316大学に

本学は新規に米・イリノイ州のエルムハースト大学と単位互換交換校の協定を結んだ。同大学はISEPのメンバー校だが、本学と2大学間の協定を結びたいとの希望が寄せられていた。これで本学の交換提携校は米国153大学、全体では316大学になった。



エルムハースト大学 シカゴから列車で約30分のエルムハースト市にある私立大学。1871年、キリスト合同教会系の大学として設立された。学部生・大学院生合わせて約2900人。U.S. News & World Report「American's Best College」は中西部でトップクラスに挙げられている。リベラルアーツ教育を中心とした大学だが、職業指導にも熱心で、三つのキャリア関連センターがインターンシップや留学などを推進している。



秋の学位記授与式が9月20日、中宮学舎本館3階のコンベンションホールであり、長期留学から帰国した学部生ら90人が卒業した。内訳は大学・外国語学部が57人、同・国際言語学部が20人、短期大学部が13人で、谷本義高大学学長、

9月  
卒業式

## 90人が巣立つ

谷本義高学長が卒業生代表にそれぞれ学位記を手渡した。

授与式は午後1時半に始まり、谷本大学学長が「厳しい社会にいよいよ、出ていけるわけですが、本学や海外の留学先で培った自らの力に自信を持ち、堂々と歩んでください。また、常に目標を掲げ、学び続ける努力をお願いしたい」と式辞を述べ、卒業生を励ました。

片山智行国際言語学部長も「外大の卒業生だから、語学力はだれにも負けないはず。卒業後も書く、読む、見るを習慣づけ、中身のある、さらにと光る人間になつてほしい」と、はなむけの言葉を贈った。

式には保護者や教職員ら約1000人が列席し、祝福した。この日は、大学院の入学式も中宮学舎であり、中国からの留学生ら3人が博士課程に入学した。

## 来春から授業時間変更 「昼休み」設ける

中宮学舎の授業時間帯

	現行	変更後
1 限	9:10~10:40	9:00~10:30
休憩	15分	15分
2 限	10:50~12:25	10:45~12:15
休憩	15分	60分
3 限	12:40~14:10	13:15~14:45
休憩	15分	15分
4 限	14:25~15:55	15:00~16:30
休憩	15分	10分
5 限	16:10~17:40	16:40~18:10
休憩		10分
6 限		18:20~19:50

本学は、2009年度新学期から中宮学舎(外国語学部、短大部)の授業時間帯を変更し、2限と3限の間に60分間の昼食休憩を設けることにした。従来、2、3限のどちらかで昼食を取るよう指導していたため、必修科目を2、3限に連続しては入れられないという時間割編成上の制約があった。

短大部の定員増(1学年100人)もあって、教室にゆとりがなくなってきたことから、昼食休憩を設け、より有効に教室を利用する。また、夕刻に6限を設け、

当面は大学院リレー講義や補講などに充てることにした。こうした変更に伴い、授業開始を10分早めて9時とした。授業時間帯は別表の通り。

## 穂谷学舎初の留学生宿舎12月完成へ



穂谷学舎で初めての留学生宿舎の建設が、キャンパスに隣接した体育館近くの旧教員住宅跡地で進んでいる。「穂谷国際交流セミナーハウス」で鉄骨造り3階建て。12月下旬に完成し、中国からの留学生16人が入居する。

中国人留学生は交換留学生15人と中国語教員インターンシップ生1人。9月に全員来日した。1年間、国際言語学部で日本人学生に交じって授業を受ける。大学別では北方工業大学5人、北京語言大学3人(うち1人は中国語教員インターンシップ生)、上海外国語大学、西安外国語大学、天津理工大学、天津外国語学院各2人。

宿舎の完成が年末になるため、それまでは近隣のアパートなどに入居、新しい宿舎に移るのは年明けになる。4部屋ごとにダイニングキッチン、シャワールームなどが設けられる。本学の留学生の宿舎は片鉾キャンパスに4棟あり、収容人員は計330人だった。新しい宿舎が完成すると計350人に増える。起工式は8月初めに行われた。(イラストはセミナーハウスの完成イメージ)

## アルバイト情報提供変更



中宮・学生部と穂谷・学務課とで、9月25日の2学期スタートを機に、在学生へのアルバイト情報を提供する方法を変更した。本学ホームページに「在学生の皆様の」画面上のバナー「アルバイト紹介システム」からアクセスする。登録料無料。

従来、学生部と学務課のカウンターで情報提供し、私立大学の担当者による「アルバイト対策協議会」の情報に基づいて求人制限する危険性を決めていた。しかし、他大学がアルバイト情報の提供をインターネットに移行したこと、本学でも対応を検討してきた。情報が多ければ他大学と共通だが、入試会場案内、家庭教師など本学学生に限定されるアルバイト情報は、本学が独自に入手し、同じページからアクセスできる。URLは次の通り。  
<http://www.aines.net/kansaiandai/>

## PICK UP!!

### テレビCM意識調査

本学は5月30日(金)から6月30日(日)まで朝、昼、夜の時間帯にテレビ新広島と福岡・テレビ西日本で46本と43本のスポットCMを放映した。本学紹介ビデオ「CO-FORT」から編集した15秒間のCMで、直後に広島県100人、福岡県200人の高校生を対象に視聴率を調査した。その結果、「CMを見た」のは55人(18.3%)。「見てどのような行動を起こしたか」では、「何もなかった」のが4分の3。「関西外大に興味をもった、オープンキャンパスに行こうと思った、志望校にしようと思った」などの回答が2割強あった。「CMの印象(複数回答)では①知的な感じ86人②創造的な感じ68人③個性がある63人など肯定的な意見が上位。うそっぽい・わざとらしい25人、ありふれて安っぽい24人など否定的意見は少数だった。「関西外大のイメージ」では、国際交流に力を入れている、学力水準が高いなど肯定的な回答が4分の3を占めた。

# 教育G.P.に本学から2件選定

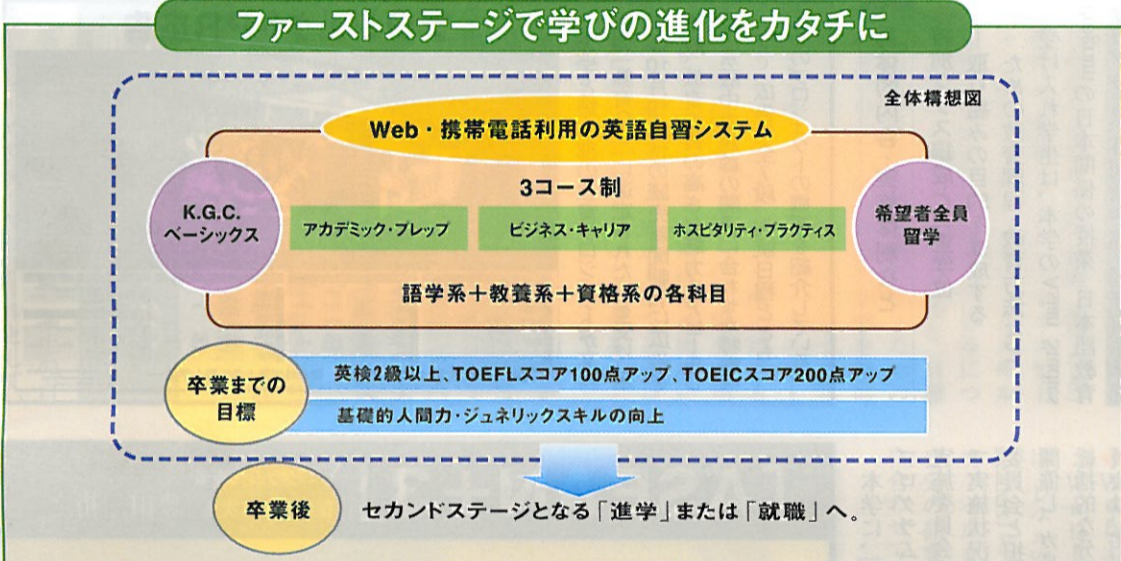
## 「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想 ファーストステージで学びの進化をカタチに 短大部 大学

本学の二つの教育プロジェクトが、文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム（教育G.P.）」に選定された。大学の「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想

と短期大学の「ファーストステージで学びの進化をカタチに」で、補助金対象期間が平成20年度から3年間。本学のプロジェクトが文科省の大学教育改革の支援プロジェクト

と短期大学の「ファーストステージで学びの進化をカタチに」で、補助金対象期間が平成20年度から3年間。本学のプロジェクトが文科省の大学教育改革の支援プロジェクト

と短期大学の「ファーストステージで学びの進化をカタチに」で、補助金対象期間が平成20年度から3年間。本学のプロジェクトが文科省の大学教育改革の支援プロジェクト



ASEAN+3大学と日、中、韓の3か国の大学でコンソーシアムを組み、「アジアを知りアジアを担う次世代国際人の養成」を目的に、「二重学位」の取得をめざす。本学では学部本科として受け入れ、学士号を授与することになる。外国語学部では初のケースとなり、学則変更など手続き上の措置が残っている。

交換留学の形を取り、派遣・受け入れとも約20人を予定。本学では学部レベルの英語で授業するクラスを増やし、留学生と共に外大生も授業を受けられるようにする考えだ。開講する授業は社会科学で、ビジネス&ホスピタリティ、国際機関の職員養成など複数のコースを設定し、選択させる。本学からの派遣学生は英語での授業の他

エクトが選定されたのは、教育改革に積極的に取り組む本学の姿勢が高く評価された表れといえ、その成果は、わが国が進める国際交流の方向や、前期高等教育のあり方の指針となるものだ。

大学のプロジェクト「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想は、文部科学省などが、平成22年を目途にめざしている「留学生受け入れ30万人計画」に対する本学の回答といってもよい。この計画の実現には、アジア諸国の学生に「日本への留学」を選択してもらわなければならないが、「日本語での授業」が大きな壁となっている。

そこで本学は、留学生別科で実績のある「英語での授業」を提案。世界標準の英語を採用することで、欧米から日本に目を向けさせることを狙っている。外国人教員に加え、海外の大学などで教育経験のある日本人教員も授業を担当するが、日本人教員については米国の大学で教授法を研修する予定だ。

K.G.C. ベーシックスでは、クラス・カウンセラーによる授業の他に、自発的な学習プログラムへの参加を推奨する。例えば、教務部が担当する「ボランティアの推進（幼稚園・保育所体験、シルバークリニックなど）の連携など」、キャリアセンターによる「キャリアデザイン（インターンシップ、アルバイト体験など）」、国際交流部などによる「日本文化研究（留学生との交流、茶道・華道・囲碁など）」で、これらによって人間力向上につなげる。

ICTの開発では、リスニング、リーディングの自主学習をWeb上で行えるオリジナルソフトや、携帯電話に配信する英文法の学習プログラムが考えられている。本学独自、または企業との共同で開発する。

に、派遣先国の言葉が学べることができると、アジアを舞台としてビジネス分野や国際機関での活躍につなげることができると、短期大学の「ファーストステージ」で学びの進化をカタチに、短大部を高等教育の「ファーストステージ」として位置づけ、①K.G.C. ベーシックスによる基礎的な人間力の向上②情報・通信技術（Information and Communication Technology: ICT）を利用した授業外の英語学習システムの開発と運用③全学生留学制度によって人間力と英語力を鍛える。

**教育G.P. 質の高い教育推進プログラム**

「特色ある大学支援プログラム」と「現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム」の二つを発展的に統合し、平成20年に発足した。各大学から申請された、教育の質の向上につながる優れた取り組みを選定して財政支援し、国全体の高等教育の質保証、国際競争力強化に資するのが目的。「質の高い大学教育等推進事業委員会」が、書類審査と面接審査によって選定する。

初年度は488大学（短大、高専を含む）から「教育課程の工夫改善」「教育方法の工夫改善」それ以外の「工夫改善」の3区分に計939件の応募があり、120大学の148件が選ばれた。

中宮キャンパス（大学院・大学・短期大学部）  
〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16-1  
TEL. 072 (805) 2801

穂谷キャンパス（大学・短期大学部）  
〒573-0195 大阪府枚方市穂谷1丁目10-1  
TEL. 072 (858) 0021

大学院	外国語学研究所	英語学専攻博士課程前・後期
外国語学部	英米語学科	言語文化専攻博士課程前・後期
留学生別科	スペイン語学科	
国際言語学部	国際言語コミュニケーション学科	
中国交流センター		

関西外国語大学 英米語学科  
短期大学部 国際コミュニケーション学科

関西外大の最新ニュースはホームページにも掲載しています  
<http://www.kansai.gaidai.ac.jp/>

# 大学「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想 アジア担う次世代国際人の養成めざす

## 取り組みの趣旨・目的

### ◆ 本学の戦略と留学生

30万人計画におけるASEAN

背景と社会的ニーズ

中央教育審議会では「留学生30万人計画」の具体化に向けた検討を重ね、戦略的な留学生獲得の国・地域として「ASEAN+3」をはじめとするアジア地域をあげている。

本プログラムは、本学の戦略的方向性と、国の計画の交差する地点で、本学の「得意技」である国際交流の実績とノウハウを生かし、長期的視野に立って取り組みようとするものである。

アジア圏との留学を進める上で、大きな障壁の一つに「言語の壁」がある。中教審の「ASEAN+3」地域からの1000人の留学生を調査した報告書では、一番の改善点として「英語による授業の増加」をあげている。本学では、外国人留学生向けのAsian Studies Programで英語による授業を提供しており、社会科学を中心にした授業をネイティブレベルの英語で提供するプログラムを開発する。

### ◆ アジアを担う次世代国際人の養成

学生教育の目的と成果に関する

具体的な目標

本プログラムの目的は「アジアを知りアジアを担う次世代国際人の養成」である。そのために学生が身につけるべき学習成果の具体的な目的は、「二重学位の取得」に象徴される。この達成に向けて、次の取り組みを行う。

第一は「英語で学ぶ」である。学士課程教育の授業をすべて英語で提供する体制を構築する。コンソーシアム構成大学は、協定に基づき所定単位を取得した学生に学位を授与する。同時に、自大学の学位を授与することで、二重学位の取得を可能とする。

第二に、留学国の言語を学習し、単位を取得すること。社会生活可能なレベルでの言語習得は、重要な課題である。

第三は、学生交流の現実化である。アジアを知り、アジアで活躍することの意義や重要性、それを具現化することのプログラムの魅力を効果的に学生に伝え、喜んで応募する工夫が必要である。

## プロジェクトPR広告



大学と短大の教育プロジェクトが文科省の「教育GP」に選定されたのを受け、本学は10月19日付の読売新聞朝刊に広告を掲載、教育の質の高さと魅力をアピールした。京阪中之島線の開通に合わせた特集ページで、広告は全手段、入試日程とともに、二つのプロジェクトの概要を紹介している。

## 具体的内容・実施体制など

### ◆ 特別クラス編成と二重学位

取り組みの目的を達成するための教育課程・教育方法など

受け入れ学生は、本学のAsian Studies Programの日本関係の授業、日本語教育プログラム、外国語学部・国際言語学部の科目から履修する。英語で提供される授業の受講を原則としつつ、日本語能力のある学生には本学の学生と同じ授業を受けることを許可する。

### ◆ 学長委員会とプログラム実施委員会

取り組みの実現に向けた実施体制  
本プログラムの最高機関として、コンソーシアム構成大学の「学長委員会」(ASEAN+3コンソーシアムプログラム推進委員会)を設け、大局的立場からプログラムの推進を図る。学長委員会の大局的方针を受けて、本学に「プログラム推進委員会」を置く。

## 評価体制

### ◆ 外部評価委員会

取り組みの達成度に対する評価体制、方法、指標の設定

## 日・中・韓・ベトナムで来秋にスタート

プログラム代表者 国際交流部長 豊田 裕之



留学生30万人計画に本学がどのように関わり、挑戦していくのか。そうした考えをもとに「ERASMUS計画」(ヨーロッパの学生教員の相互交換システム)のアジア版を作ろうというのが、今回の大学コンソーシアム構想です。

しかし、日本の大学が多数の留学生を受け入れるには、日本語での授業が大きな壁となっており、英語による授業を求められています。本学には留学生別科で英語による授業を提供している実績がありますから、他大学に先駆けて取り組んで、モデルケースにしてもらおうと考えたわけです。

プログラムの目的は「アジアを知りアジアを担う次世代国際人の養成」です。派遣先大学と自大学と両方の学士号の「二重学位」をめざしますが、専門科目に加え、現地の言葉を日常生活で使える程度に学び、自国語、英語とも1言語の3か国語を使えることになり、こうしたコミュニケーション能力は、これからの国際人にとって不可欠な要素といえるでしょう。

ASEAN10か国すべての国の大学が最初からコンソーシアムに加わることは現実的に無理なので、まず本学が学位留学の提携をしている中国の大学と、交流が盛んになってきた韓国の大学とで準備を始めます。それに、ベトナムの大学を加えて1年後にスタートし、学生の相互派遣を行う予定です。その後、他の国に参加を呼びかけ、拡大を図ります。日本の大学で希望するところがあれば、参加を検討します。

アジアの学生に本学を選択してもらうためには、どれだけ魅力的なカリキュラムを作れるかが鍵になります。そうした面も視野に入れて、スタッフを整備する必要があります。

外大生にも大きなメリットがあるでしょう。本学が受け入れる留学生は学部での英語で行われる授業を受講しますが、そこに外大生も加わるようにし、学部からの留学生と交流がいつそう活発になるはず。学位留学先にアジアの大学が増えれば、選択の幅が広がり、アジアで活躍する道につながります。(談)

### ◆ 本学に「ASEAN+3」コンソーシアム

プログラム外部評価委員会」を設ける。実施委員会は、半年単位(1 semester)で実施状況調査を行う。並行して、実施委員会と担当教員の定期的連絡会議を開催し、カリキュラム内容などについて総合的な分析と評価を行う。外部評価委員会は、アジアの大学教育に識見を有する少数の委員で構成し、定量的評価と定性的評価を組み合わせた、プログラムに実効ある評価を行うものとする。

### ◆ 学長の責任体制

評価を取り組みに反映させる方法  
外部評価委員会の行った評価結果を学内外に公表し、コンソーシアム構成大学の活動および本学実施委員会の活動に反映させる。本学では、学長が外部評価委員会の評価結果に責任を持って対応する。

### ◆ 外部評価委員会の総括評価

取り組み期間終了時の評価体制など  
本プログラムは、留学生の修学時期(平成21年秋季入学→23年春季学期学位取得見込み)から見ると、第1回の学位取得が最速で23年夏になる。GP事業の終了時期は22年度末なので、まずGP事業終了時点で中間的総括評価を行い、第

1回学士取得時点で総括評価を行う。本プログラムは、当然ながらGP事業の終了後も引き続き発展させていくことを展望しており、今後の継続発展に役立つ評価とする。

## 実施計画など

### ◆ 全体スケジュールおよび各年次の実施計画概要

平成20年に関西外大、上海外国語大学、北京語言大学、北方工業大、天津外国語学院、釜山外国語大で準備開始、ベトナムに働きかけ。21年、ベトナム国立社会人文学科大学を加えた7大学でコンソーシアム結成。秋学期から学生派遣開始。22年拡大交渉、構成大学の担当教員による研究会開催。23年第一回学士取得。

本学では20年に日本人教員のFD研修開始。21年派遣受け入れ学生の選考、カリキュラムの準備。22年外部評価委員会の評価、23年総括。

### ◆ 参加する教職員と学生の数

参加教職員は、語学系以外は主に社会科学系の科目の教員である。ネイティブレベルでの英語授業を行う日本人教員10数人、現在留学生別科でAsian

Studies Programの英語授業を担当し学士課程教育の能力を持つ外国人教員10数人を予定している。

日本人教員は、ウィスコンシン大学オークレア校教育学部での英語による教授法の研修に派遣するなど、FD研修にも力点を置く。

派遣受け入れ学生は、当面、20人程度を想定している。中・長期的には、受け入れ派遣と同様にあらかじめ人数制限などはしない。

### ◆ 取り組み期間終了後の大学などに

おける取り組みの展開予定  
平成23年夏に本プロジェクト初の二重学位授与留学生がコンソーシアム各大学で誕生する。GP事業終了時点で、ASEAN+3全域にコンソーシアムを拡大するのは、やや困難な面があり、その後学長委員会を中心にコンソーシアムが拡大するよう努力する。未加入大学への勧誘は、コンソーシアム構成大学の責任であり、特に本プログラムを提案する本学が第一に負うべきものと認識している。

「ASEAN+3とは」  
ASEAN10か国(インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、ブルネイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス、カンボジア)、十日本(中国、韓国、

# 外交講座 山野内 北米一課長が講演 米大統領選と日米外交



学生とのやり取りにも熱がこもった

本学恒例の「外交講座」が10月29日、中宮学舎のマルチメディアホールであり、外務省北米局北米第一課長の山野内勘二さんが「アメリカ大統領選挙と日米外交の行方」をテーマに講演した。遠隔授業システムを使って穂谷学舎にも中継され、大学院や外国語学部、国際言語学部、短大部の学生ら約200人が受講した。今年からは市民にも公開、米大統領選挙が11月4日に迫っていることや、山野内さんが

受講者に質問して答えを引き出すやり取りもあって盛り上がった。山野内さんは会場の学生たち4人に日本の外交課題を一つずつ挙げさせた上で、「北朝鮮や金融危機、地球環境、食糧などの問題を、米国の手を携えて解決策を考えるべきだ」と日米外交のあり方を説いた。大統領選については、「80年ぶりに正副大統領候補4人とも全くの新人②4人のうち3人が史上初の要素を持つ多様性③予備選挙でことごとく外れた世論調査」という今回の特徴を紹介。世論調査結果と違った結果が出る「ブラッドリー効果」にも言及し、選挙の仕組みや共和党・マケイン、民主党・オバマ両候補の資金力、人脈などについて説明した。「日常の仕事は？」という質問に、山野内さんは首相への説明資料を作る作業にふれ、「首相の一言一言が外交上の政策になるので、『言葉』が非常に大切と感じている」と話し、語学とコミュニケーション力を磨いている学生たちは共感を覚えた様子だった。



協定書を交換する谷本学長と柳総長(釜山外国語大学で)

# ASEAN+3 大学コンソーシアム 釜山外大・天津外語学院と協定

本年度から始まった文部科学省の教育GPに選定された「ASEAN+3 大学コンソーシアム構想」の実現に向けた包括的提携に関する協定が、関西外国語大学・釜山外国語大学・天津外国語学院の3大学で合意に達し、10月31日、釜山外大で同大学と関西外大の協定締結式が行われた。天津外語学院とは11月10日付で協定書を取り交わした。これで、コンソーシアム構想の第一歩を踏み出したわけで、今後、留学生相互派遣のための具体的な取り決めについて話し合う。

協定書によると、協定の目的は「将来のアジアを担う次世代国際人の養成を目指す国際教育研究ネットワーク・大学コンソーシアム構想の実現」で、連携事業の内容としては「3大学間の二重学位取得等を目的とする学生の相互派遣・受け入れ」など。提携事業の実施のために3大学の学長で構成する「コンソーシアムプログラム促進委員会(学長委員会)」を設置する。

釜山での締結式には、本学から谷本義高大学学長、山本甫国際交流部長ら、釜山外大から柳宣圭総長らが出席した。席上、谷本学長は「グローバル化が加速する世界において、欧米諸国だけでなく、アジア各国との交流をより深め、

アジア圏文化社会に精通した人材を育成し、アジア圏の将来の発展に貢献してもらおうというのがこの大学コンソーシアム構想の狙いです。この構想を通じて、関西外大と釜山外大との友情がますます深くなることを望んでいます」とあいさつした。柳総長は「釜山外大は大学の生存をかけて国際化に努力しており、世界各国の大学と二重学位の提携に取り組んでおります。今回のASEAN+3コンソーシアムは、そのような努力と一致するものです」と強調した。

天津外語学院は修剛学長が協定書に署名した。本学はドイツのバンベルク大学、カナダのハンパー大学と単位互換交換校

バンベルク大学 大学のあるバイエルン州バンベルク市は、フランクフルト空港から列車で約3時間。創立は1647年。キャンパスは町全体の歴史的景観に組み込まれている。学生数は約9000人、50か国以上の約180大学と提携している。本学からは英語を主とする交換留学(ドイツ)とドイツ語を主とするドイツ交換の2プログラムで派遣可能。9月と3月に開講されるドイツ語集中コースを交換留学学生も履修できる。



ハンパー大学 1967年創立。職業訓練専門の公立大学。トロント市内に3キャンパスを持ち、学生数はフルタイム1万9000人(うち留学生は75か国700人)、パートタイム5万5000人。教職員数約1万5000人。

の協定を結んだ。またカナダのウィルフレッドローリエ大学との協定を解消した。これで、本学の提携校は317大学となった。

すべてのプログラムは理論から実践的職業技術まで幅広く学べ、就職に必要なスキルを習得を目標としている。教授陣は民間企業で働いた経験を持つっており、少人数制の授業スタイル。ビジネスマネジメント、ホスピタリティ、ツーリズムなどの分野がある。

今後の海外の高校との提携を考慮、受け入れを決めた。今回、韓国の高校生1人が特別入試を受験、本学で面接を受け、外国語学部へ合格した。豪州の高校生については書類選考のみとし、国際言語学部で受け入れる。高校と協定内容について協議している。

現代GPシンポを開催 本学が進める現代GP「学生人材バンク」による地域国際化の推進に関連して、「TESOL+e-Learning」による英語教育の活性化」がテーマのシンポジウムが11月8日、中宮キャンパスのマルチメディアホールで開かれた。オーストラリア・フレザードス大学のEDL(Intensive English Language Institute)のボニー・コスレン所長、e-Learning担当マネージャーのジョン・マーフィーさんの二人が出席、午前の部では、「中学生学習びんぐ・キャンパス@関西外大」として中学生を対象とした英語活動「Good Day, Mate!!(オーストラリアの再発見)」の後の部は「e-Learning+TESOLの基礎理論と実践」を行った。

中島康博准教授が逝去 短期大学部英米語学科の中島康博准教授が10月23日に死去し、同日、北海道旭川市で葬儀が営まれた。38歳だった。中島准教授は闘病中、担任の学生たちに伝えてほしいと、次のようなメッセージを母親の修子さんに託している。「年度途中で入院することになり、ク



ラスの学生に迷惑をかけて申し訳ない。君たちにはすばらしい未来が待っているのだから、どんなことにもくじけず頑張ってください」

中島准教授は北海道教育大学旭川分校卒。米国イリノイ大学アーバナシャンペン校で「TESL」修了「M.A.」取得。2007年外国語学部非常勤講師、08年短大准教授となり、短大部でリーダーシップとライティング、外国語学部で商業英語の授業を担当するようになった直後、病魔に倒れた。

「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)実施委員会メンバー」 「ASEAN+3」 大学コンソーシアム構想(大学) 委員長 谷本義高 大学学長 副委員長 山本甫 国際交流部長 委員 豊田裕之准教授(国際交流部長) 次長、新衛衛教授(中国交流センター長)、相原里美講師、松宮新吾教授、田村幸男 事務局長、吉川淳三教務部課長、安永吉一 学生部課長 (別に、アドバイザーとしてP.S.ゴールドバーク講師) ファーストステージで 学びの進化をカタチに(短大部) 委員長 谷本榮子 短大部長 副委員長 廣本和司教授(キャリアセンター所長)、岡澤潤次教授(FD委員長) 委員 井登大策教授(教務部長)、山本甫 外国語学部教授(国際交流部長)、宮野智靖教授、浅田忠久准教授、田村事務局長、吉川教務部課長

3月21日(土)に学位記授与式 2008年度の大学院、大学、短期大学の学位記授与式(卒業式)の日程が決まった。来年3月21日(土)、3回に分けて谷本記念講堂で行う。第1回目は、穂谷学舎の国際言語学部と、最後の卒業式となる短期大学部国際コミュニケーション学科の合同で、午前9時集合、9時半から開式。第2回目は大学院、外国語学部の合同で、午前11時半集合、正午開式。第3回目は短期大学部英米語学科単独で、午後2時集合、2時半から開式。各回の式典終了後、学内の食堂で卒業パーティー(自由参加)を予定している。

初海外指定校・韓国と豪 本学は、韓国の高校1校、豪州の高校5校を特別入試の指定校にすることを決め、6月と9月の教授会で承認した。海外の指定校は初めて。来春卒業予定の両国の高校生から「日本人学生に交じて日本語で授業を受けたい」との希望が寄せられ、本学も



合格証書を手にも喜色満面の春派遣の学生



春派遣の代表に合格証書を授与

# 春派遣の71人に合格証書

## 9か国28大学へ羽ばたく

2009年春に派遣される留学生の合格証書授与式が1月15日、中宮キャンパス本部棟の多目的ルームで行われ、谷本榮子理事長は、式辞の中でかつてない経済危機によって混沌とする世界の現状を踏まえ、留学を通して視野を広げることの重要性を強調した。合格証書を授与されたのは、9か国28大学

に派遣される71人で、このうち1年半の英語/推薦留学が3人、1年の交換留学29人、英語/レギュラー留学35人、日本語インターン4人となっている。授与式ではまず、谷本理事長からプログラムごとの代表に証書が手渡された。このあと式辞を述べた理事長は「留学を通して、個人としての能力やスキ

フェドロピッチ准教授はアメリカの大学生だったときに本学の留学生別科に留学した体験を交えながら「日本人学生ばかりでかたまってはいけない。何にでも積極的に参加し、経験を積みなさい」とアドバイスした。最後に、派遣学生代表の外国語学部英米語学科2年、河瀬楓子さん(豪州ク

## 谷本「広い世界に目を向けて」

ルを磨くだけでなく、広い世界に目を向けてください」と要望。続いて山本副国際交流部長があいさつし、「きびしい時代だからこそ国際的な知識を持った人材が求められる。やればやっただけ君たちの血と肉となることを忘れずに」と諭した。留学準備コースの担当教員を代表して祝辞を贈ったステイヴン・

イーンズランド工科大学・交換留学」と同、桑畑佑紀さん(米国アラバマ大学・英語/レギュラー留学)が力強く留学の決意を表明した(要旨は8面)。今春派遣される長期留学生としては、このほかに豪州の6大学、カナダの3大学に派遣される139人の英語留学生が決まっている。

## 中宮学舎で830人受験 大学入試センター試験

約54万4000人が出願した大学入試センター試験は1月17、18の両日、全国738会場で行われた。本学では8

30人が中宮学舎の14教室で問題と取り組んだ。初日は国語、外国語など4教科、2日目は理科、数学の2教科が行われた。英語のリスニングでは、過去3回と同様、全国各地の会場で機器の不具合によって、再テストを行うトラブルが相次いだ。本学ではなかった。



# 本学の「教育G.P.」を紹介

## 横浜で大学改革合同フォーラム

「大学教育改革プログラム合同フォーラム」(主催:文部科学省、財団法人文教協会)が1月12、13両日、横浜市のパシフィコ横浜で開かれ、本学は、「質の高い大学教育推進プログラム(教育G.P.)」に選定された「ASEAN+3」大学

コンソーシアム構想(大学)、「ファーストステージで学びの進化をカタチに」(短期大学の2教育プロジェクトを1日目のポスターセッションに出展、取り組み内容を紹介した。本学の2プロジェクトは、それぞれ

## 20年度卒業式は3月21日

### 3回に分け谷本記念講堂で

平成20年度の学位授与式(卒業式)の日程が決まった。3月21日(土)に3回に分けて、中宮学舎の谷本記念講堂で行われる。第1回目は、穂谷学舎の国際言語学部と最後の卒業式となる短期大学部国際コミュニケーション学科合同で、午前9時集合、9時半開式。第2回目は大学院、外国語学部の合同で、午前11時半集合、正午開式。第3回目は短期大学部英米語学科単独で、午後2時集合、2時半開式となっている。各回の式典終了後、学内の食堂で卒業パーティー(自由参加)も開かれる。

## 08年最後 入試対策説明会も兼ねる オープンキャンパスに450人

08年最後のオープンキャンパスが12月20日、中宮キャンパスで開かれ、高校生や保護者ら約450人が参加した。写真。08年のオープンキャンパスは2回の穂谷キャンパス単独開催を含め8回行われ、参加者総数は約8600人となり、前年を約150人上回った。

12月開催分は、一般入試前日程(2月7、8、9日)の対策説明会を兼ねており、本学教員が英語や国語の出題傾向を解説した。英語では「英文を精緻に、素早く理解する力が重視されている。リスニングは英文が長いので集中力を養うことが大切」、国語では「09年度入試から表現力を問う問題が加わるので、さまざまなジャンルの本を読んで語彙を増やしておくこと」とアドバイスした。



独自のブースを設けてポスターを張り、パンフレットを配布した。各ブースでは、岡澤潤次教授、廣本和司教授、豊田裕之准教授、田村幸男事務局長、吉川淳三教務部課長が来訪者への説明に当たった。大学のブースでは、「海外の大学とコンソーシアムを組むスケールの大きさに驚いた。関西外大にしかできないこと」と賞賛の声が聞かれた。短大部のブースは、授業外学習のツールとして開発する携帯電話を利用した英語学習システム「ICT」と、全員留学制度に注目した来訪者が多かった。



## 世界に開かれた本学をアピール

### 目を引く留学生らの群像

本学の総合プロモーションの一環として、今年2月12日から、大阪市地下鉄御堂筋線心齋橋駅に高さ1.9m、長さ13.1mもある帯状のポスターを掲示した。掲示場所は、千里中央方面行きホームの北寄り、壁面と天井の間。1年間続けられる。

ポスターの左半分は、本学学生と留学生別科留学生の10人が笑顔で並んだ群像写真。「Gateway to the World」のキャッチフレーズをつけ、世界に開かれた関西外大を印象づけている。中央部は「関西外大 KANSAI GAIDAI UNIVERSITY」にホームページのURLを書き、右側は、中宮キャンパス正門から見た本館の写真を配し、「Global Campus」の説明を入れている。

## 地下鉄心齋橋駅に 長大ポスター掲示

エチオピアのアブディラシッド・ドウラネ駐日大使が2月3日、関西の経済、文化視察の途中に来学し、中宮学舎で谷本榮子理事長、谷本義高大学学長らと懇談した。エチオピア大使の本学訪問は初めて。

ドウラネ大使は「本国との学生交流をぜひ、実現したい」と要望。谷本理事長は「私たちはいま、アジア各国との交流を深める『ASEAN+3大学コン

## 「学生交流実現したい」 エチオピア大使 本学訪れ、 理事長らと懇談

エチオピアのアブディラシッド・ドウラネ駐日大使が2月3日、関西の経済、文化視察の途中に来学し、中宮学舎で谷本榮子理事長、谷本義高大学学長らと懇談した。エチオピア大使の本学訪問は初めて。

ドウラネ大使は「本国との学生交流をぜひ、実現したい」と要望。谷本理事長は「私たちはいま、アジア各国との交流を深める『ASEAN+3大学コン



本学は中国・天津外国語学院の修剛学長に名誉博士号を授与することを決めた。4月2日、中宮キャンパス・谷本記念講堂で開催される国際言語学部の入学式のと、名誉博士号授与式を行う。

## 修学長(天津外 語学院)に名誉博士号授与

和国のイボリト・メヒア大統領(02年)に次いで3人目。

修学長は中国における日本語教育の推進に尽力し、現在日本語教育学会会長。天津外国語学院でも日本語教育に力をいれ、同学院は本学と07年10月に単位互換の協定を結んでいる。同学院から交換留学生2人を受け入れ、本学

3人から  
本学から

## 日本語教育の推進に尽力

からは交換留学生1人、日本語インテリゲンシブ生2人を送っている。

本学の教育GP「ASEAN+3大学コンソーシアム」の設立にあたって、同学院は釜山外国語大学と並んで中核的な役割を担っている。修学長は

今後、本学に関する大学院前期、後期で日本語学の研究指導を行ってもらう予定で、高い学識に加え本学との交流、日中交流への貢献を高く評価して名誉博士号を贈ることになった。

修学長は、国際言語学部だけでなく、同日開催の外国語学部、短期大学の入学式にも来賓として出席する予定だ。

## 3年次編入学生受け入れ 韓国の2大学と協定結ぶ

本学は、韓国の東西大学、釜山外国語大学と「3年次編入生」受け入れの協定を結んだ。2大学の2年次修了生を外国語学部、国際言語学部の3年次生として編入させるもので、ともに若干

名。最初の受け入れは平成22年4月になる。本学の教育GP「ASEAN+3大学コンソーシアム」の一環で、中国の北方工業大学に次ぐ受け入れになる。両大学の学長が推薦した学生が対象

## ASEAN+3 大学コンソーシアムが発足

### 中国、韓国、タイ、ベトナムから学長参加

08年度の文部科学省教育GPに選定された本学の「ASEAN+3」大学コンソーシアム」の包括提携調印式が3月30日午後、中国、韓国、タイ、ベトナム4か国の大学学長に本学の谷本義高学長、谷本榮子理事長らが参加して中宮キャンパス・マルチメディアホールで行われ、同コンソーシアムが発足した。

式典に参加したのは天津外国語学院の修剛学長、釜山外国語大学の柳宣圭総長、バンコク大学のマサナ・サントイワット学長、ベトナム国立社会科学人文科学大学のフオ・ヴァンセン学長。

6670人が合格  
国言の志願者大幅増  
2009年度入試終わる

一般入試、特別入試(英語特技、社会人、帰国生徒)の後期日程が3月3日にあり、同日、大学入試センター試験利用入試を合わせた合格者2777人が発表された。これで2009年度入試はすべて終了し、志願者総数は外国語学部7104人、国際言語学部3166人の計1万2770人、短期大学部2987人だった。

少子化の中、志願者の減少が心配されたが、国際言語学部が国際メディア英語コミュニケーション学科の新設などによって約56%増となり、大学全体でも約1%増になった。

合格者総数は大学4250人(外国語学部2911人、国際言語学部1339人)、短大部2420人の計

6670人だった。特に、2年間の海外留学につながる「英語特技入試」の合格者は前年度の13人から一挙に50人に増え、同入試は2年目を迎えて軌道に乗ってきた。

で、書類選考により合格者を決める。入学後は、英語が堪能な学生は留学生別の授業を、TOEFL550点程度の学生は新しく開講する外国語学部の英語による授業を、日本語が堪能な学生は外国語学部または国際言語学部に所属して日本語による授業を中心に受講する。卒業すれば、本学と韓国の大学の二重学位を取得する。

## 初の地方入試実施

### 来年度の入試日程決まる

2010年度の入試日程が決まった。新たに名古屋、広島、福岡の3市で「地方入試」を行い、また特別入試指定校の中に「高大連携」の特別枠を設ける。地方入試は公募制推薦入試(大学、短大部)、一般入試前期日程(大学のみ)で導入し、会場などは7月ごろ、発表される。出願期間、試験日、合格発表日は別表のとおり。

2009年度入試志願者数【大学】

学部	外国語		国際言語	計
	英米語	スペイン語	国際言語 コミュニケーション	
指定校	214	44	307	565
特種	33	2	16	51
特別入試	43	—	—	43
前期	30	—	—	30
後期	2	0	0	2
公募制推薦入試	10	1	3	14
前期	26	—	—	26
後期	1	1	0	2
センター利用	3	2	0	5
前期	3,139	569	1,265	4,973
後期	1,601	336	940	2,877
センター利用	408	116	342	866
前期	339	123	252	714
後期	43	18	41	102
計	5,892	1,212	3,166	10,270

(前年度 10,196 前年度比 +74 100.7%)

2009年度入試志願者数【短大部】

学科	英米語
指定校	353
特別入試	0
前期	1
後期	1
公募制推薦入試	1
前期	851
後期	1,304
センター利用	168
前期	292
後期	16
計	2,987

(前年度 3,576 前年度比 -589 83.5%)  
一般入試の前、後期には短大部第二志望対象者を含む

2010年度入試日程

入試の種類	出願期間	試験日	合格発表
指定校(専願)	10月1日(木)~10月6日(火)	10月18日(日)	10月24日(土)
特種[A方式][B方式](専願)*1	10月1日(木)~10月6日(火)	10月18日(日)	10月24日(土)
英語特技(専願)	前期	10月1日(木)~10月6日(火)	10月24日(土)
社会人	後期	2月16日(火)~2月22日(月)	3月6日(土)
帰国生徒	後期	2月16日(火)~2月22日(月)	3月6日(土)
公募推薦入試(名古屋、広島、福岡)	10月26日(月)~11月2日(月)	11月14日(土)、15日(日)**2	11月21日(土)
一般入試(大学のみ地方入試(名古屋、広島、福岡))	前期	1月9日(土)~1月26日(火)	2月7日(日)、8日(月)、9日(火)**3
一般入試	後期	2月16日(火)~2月22日(月)	3月3日(水)
センター試験利用入試	前期	1月9日(土)~1月26日(火)	1月16日(土)、17日(日)**4
センター試験利用入試	後期	2月16日(火)~2月22日(月)	1月16日(土)、17日(日)**4

\*1:エントリー受付8月31日(月)~9月4日(金) ※2:試験日自由選択  
\*3:7日短大部、8日大学英米語学科、9日大学スペイン語学科、国際言語学部 ※4:大学入試センター試験実施日



# 2009年度留学プログラム

期間	プログラム	派遣時期	国・地域	申込期間	TOEFL基準		
					最低受験回数	平均点	
長期留学	3年	大学・大学院学位※1	秋	アメリカ	11/16～11/19	3回	500点以上 (1回は550点以上)
	2年	米国学位※1	秋	アメリカ	11/16～11/19	3回	500点以上 (1回は550点以上)
		中国学位	09年秋	中国			
		スウェーデン学位※1	秋	アメリカ・スウェーデン			
		カナダ学位※1	秋	カナダ			
		2か国※1	秋	50か国・地域から2か国選択可能			
		ビジネス+中国語※1	秋	中国・香港			
		スペイン語圏2か年(10月選考)※1	秋	メキシコ			
		中国語+韓国語※1	秋	韓国・中国			
		フランス語圏2か年	秋	フランス・カナダ			
		ドイツ語圏2か年	秋	ドイツ・オーストリア			
	スペイン語圏2か年(1月選考)	秋	メキシコ				
	1年	交換	春	オーストラリア・ニュージーランド・南アフリカ・韓国	5/18～5/21	3回	500点程度
韓国(大真・ソウル女子大学)							
アルゼンチン・エクアドル・ブラジル・チリ							
秋			37か国・地域(英語での授業受講国)	9/29～10/2	3回	500点程度	
			ロシア・ベトナム・イタリア				
09年秋		スペイン・メキシコ・ポルトガル・エクアドル・ドミニカ共和国	11/24～11/27	3回	500点程度		
		ドイツ・オーストリア・フランス・カナダ(ケベック)					
		中国・台湾					
推薦		春	中国	10/5～10/9	3回	500点以上 (1回は530点以上)	
		秋	37か国・地域(英語での授業受講国)				
1年半	英語/推薦(1年半)	春	アメリカ・カナダ	5/18～5/21	3回	500点程度	
	英語/レギュラー	春	アメリカ				
		秋	アメリカ				
	英語	春	オーストラリア・カナダ				
		秋	アメリカ				
認定	春	各自選定	11/30まで	3回	490点程度		
09年秋	各自選定	4/30まで					
短期留学	5週間	夏期語学研修	アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド・ドイツ・フランス・スペイン	4/20～4/23	1回以上受験(英語圏のみ)	500点程度	
			中国				
	2週間	イギリス(2週間)	5/11～5/15	1回以上受験(英語圏のみ)	490点程度		
						アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド・ドイツ・フランス・スペイン	
	10・20週間	秋学期語学留学	5/18～5/22	1回以上受験(英語圏のみ)	450点程度		
						アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド・ドイツ・フランス・スペイン	
	5週間	春期語学研修	10/13～10/16	1回以上受験(英語圏のみ)	450点程度		
						中国	
	10・20週間	春学期語学留学	10/19～10/23	1回以上受験(英語圏のみ)	450点程度		
						アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド	
5週間	海外教職英語研修	(春、夏)オーストラリア(フリンダース大)	未定	未定	教職課程履修者		

※1 秋派遣 交換留学37か国・地域(英語での授業受講国)の選考試験の合格者のみに申込資格。プログラムによっては、申込時または派遣時にTOEFL550点以上を取得していることが条件となるものがある。詳しくは、2009-10年度版「留学の手引き」や募集要項を参照のこと。

## 2009年度学内TOEFL実施日程

英語特技	試験日	申し込み(在学生用)	英語特技入試用	選考試験
必修※1	4/10			A B C D E F
必修※2	4/11			A B C D E F
学内/英特	① 4/25	4/13～4/17	4/13～4/17	A B C D E F
学内/英特	② 5/9	4/23～4/28	4/27～5/1	B C D E F
学内/英特	③ 5/23	5/11～5/15	5/11～5/15	C D E F
学内/英特	④ 6/6	5/25～5/29	5/25～5/29	D E F
学内/英特	⑤ 7/4	6/8～6/12	6/22～6/26	E F
英特	⑥ 7/25		7/13～7/17	
英特	⑦ 7/26		7/13～7/17	
学内/英特	⑧ 9/26	7/13～7/17	9/7～9/11	E F
学内/英特	⑨ 10/3	9/25～9/30	9/14～9/18	E F
英特/選考※3	⑩ 11/28		11/9～11/13	F
英特/必修※4	⑪ 12/5		11/24～11/27	
学内/英特	⑫ 1/9	12/7～12/11	12/14～12/18	
必修※5/英特	1/22			
必修※6	⑬ 1/23		1/12～1/15	

※1 外国語学部英米語学科新入生 ※2 国際言語学部・短大部新入生  
 ※3 (学位・2か国・各種2か年留学) 秋派遣・春派遣英語留学 ※4 外国語学部2年次生  
 ※5 外国語学部英米語学科・国際言語学部1年次生 ※6 短大部1年次生

- A: 米・加・豪・ニュージーランド夏期語学研修
- B: 留学生別科共同開講科目、米・加・豪・ニュージーランド秋学期語学留学
- C: 留学準備コース、ビジネスプレビュー(秋学期)、春派遣交換・推薦(豪・ニュージーランド・南ア・韓)、春派遣英語推薦(1か年半)、春派遣英語レギュラー(米)
- D: 学部3年次編入学(9月選考)
- E: 米大学大学院学位、学位/2か国/中国語+ビジネス/中国語+韓国語/スペイン語圏(10月選考)、秋派遣交換(北米・欧州・アジア・アフリカ・中東)、秋派遣英語レギュラー、ビジネスプレビュー(春学期)、米・加・ニュージーランド・豪春学期語学研修、米・加・ニュージーランド・豪春学期語学留学、秋派遣推薦(北米・欧州・アジア・アフリカ・中東)、仏語・独語・スペイン語圏各2か年
- F: 秋派遣英語(米)、春派遣英語(豪・加)

## 4月に国際ボランティア説明会

国際教育交換協議会(CIEE)主催の国際ボランティアの説明会が、4月に中宮、穂谷両キャンパスで2回ずつ開催される。国際ボランティアは夏休み中などに2～3週間、世界各地で、各国からの参加者と寝食を共にして環境保

護・整備、子ども達との交流などのボランティア活動を行うプログラム。

### <説明会の日程>

中宮: 4月16日(木)、20日(月)。いずれも16:30から3208教室で。  
 穂谷: 4月17日(金)、22日(水)。いずれも16:30から。38号教室で。

## “アジア留学”の集い 外大生と留学生がゲームで交流

アジアからの留学生、アジアの大学への留学候補生、教育GP「ASEAN+3大学コンソーシアム」に興味を持つ外大生らの集いが3月5日夕、国際交流センターで開かれた。「アジアの大学の魅力を知ってもらおう」と国際交流部が企画、韓国、中国、香港、マレーシア、シンガポール、ベトナム、タイからの留学生21人、外大生27人(うち8人が留学候補生)が参加した=写真。

集いでは、まず、外大生が書いた質問カードをめくって、留学生が答えるというゲームを行い、「韓国の徴兵制はどんなもの」の質問に、韓国からの留学生が「徴兵に行ってきたけど、得難い経験だった」。また、「香港では合コンはないの」の質問には「香港には合コンはない」「シンガポールでは会社が合コンのようなことをやっている」などと答えていた。

このあと、留学生がパソコンでそれぞれの国を紹介するプレゼンテーションを行った。参加した外大生は「アジアでも英語の授業があることを知った」「留学先の選択肢が広がった」と感想を寄せていた。



## ヨーロッパ・アフリカ・メキシコの留学生と派遣候補生“全員集合”

2009—10年度の長期留学プログラムでヨーロッパ諸国、アフリカ、メキシコに派遣される外大生と、それらの地域から留学生別科へ留学している学生らが、2月26日夕、国際交流センターで“全員集合”、情報交換や交流の発展に繋げる第一歩になった。

参加したのは外大生59人、留学生は17か国の37人。大教室に集合し、国別に14のグループに分かれたあと、各グループは小教室で、各国を3分間でPRするプレゼンテーションのアイデアを出し合い、50分間かけて準備した。その成果を全体集会で発表、各グループが趣向を競い合った。手書きのポスターを使って名物料理や観光名所を説明したり、歌や

ダンスを披露したりしてユニークなプレゼンを試みていた。ケニアからの留学生はスワヒリ語の「ミニ会話教室」を行って会場を盛り上げた。

最後に、参加者全員で魅力的な国、行ってみたい国を挙手で票決し、フランスがトップに選ばれた。エッフェル塔、凱旋門、セーヌ川などパリの観光名所を組み体操のような形で表現したのが受け入れられたようだ。

イベントを企画した国際交流部では「外大生にとって留学先の情報が得られ、留学生と交流できたことは大きな収穫。それだけでなく、周りの国についても理解を深められた」と話している。





## 4327人が仲間入り

# 夢に向かって

2009年度入学式

## キャンパスライフスタート

2009年度の大学院、大学、短期大学の入学式が4月2日、中宮キャンパスの谷本記念講堂で3回に分けて行われ、編入学を含む総勢4327人が大学生活のスタートを切った。写真。

新入生の内訳は大学院博士課程前期19人、同後期1人、外国語学部1722人(英米語学科1427人、スペイン語学科295人)、国際言語学部793人、短大部英米語学科1289人。編入学は外国語学部英米語学科371人、スペイン語学科7人、国際言語学部125人の計503人。

式は午前9時半から国際言語学部、正午から大学院と外国語学部、午後2時半から短期大学の順で行われた。開式の言葉の後、吹奏楽部の演奏で、混声合唱団「ラベリテ」が学歌を斉唱。

続いて編入学生を含む8人が「誠実に学則を守り、秩序を重んじ、人格の向上と学業の研鑽につとめます」との誓詞を読み上げた。

谷本義高学長は「目的意識を持ち、自律して主体的に学び続けてください」と告辞。谷本榮子短大部学長も「知性と感性を磨き、自らの言葉で自らの考えを発信する能力を身につけてください」と励ました。

この後、橋下徹・大阪府知事や竹内脩・枚方市長、上海外国語大学などから届いたお祝いの学長メッセージが披露された。

最後に各学科の在校生代表5人がそれぞれ英語とスペイン語、中国語で歓迎の言葉を述べた。  
(2～3面に関連記事)



### Campus Calendar 2009-10

2009年度 キャンパスカレンダー

May	5月23日(土)	留学生別科修了式
June	6月 7日(日)	文化博覧会(中宮)
	6月13日(土)	秋派遣留学生合格証書授与式
July	7月22日(水)	春学期授業終了
	7月27日(月)~8月5日(水)	春学期末試験
September	9月 3日(木)	留学生別科 入学式
	9月 7日(月)	留学生別科 秋学期授業開始
	9月19日(土)	大学院9月入学式
	9月19日(土)	学位記授与式(9月卒業式)
October	9月25日(金)	秋学期授業開始
	10月10日(土)	保護者就職懇談会
	10月18日(日)	特別入試
November	10月30日(金)~31日(土)	穂谷祭
	11月11日(水)	創立記念日
	11月14日(土)~15日(日)	公募制推薦入試
	11月19日(木)~23日(月)	外大祭
December	11月22日(日)	ホームカミングデー(予定)
	12月19日(土)	第1回航空ガイダンス
	12月22日(火)	授業終了
January	1月 6日(水)	授業開始
	1月16日(土)~17日(日)	大学入試センター試験
	1月25日(月)	秋学期授業終了
February	1月28日(木)~2月6日(土)	秋学期末試験
	2月 7日(土)~9日(火)	一般入試 前期日程
March	2月23日(火)	第2回航空ガイダンス
	3月 3日(水)	一般入試 後期日程
	3月20日(土)	学位記授与式

天津外国語学院  
修剛学長に名誉博士号授与  
(記事は4面)



協定書にサインする5大学の学長

## 「ASEAN+3」 大学コンソーシアム

日中韓+タイ、ベトナム  
5か国5大学で始動 (記事は4～5面)

中宮キャンパス(大学院・大学・短期大学部)  
〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町16-1  
TEL. 072(805)2801

穂谷キャンパス(大学)

〒573-0195 大阪府枚方市穂谷1丁目10-1  
TEL. 072(858)0021

関西外国語大学

大学院  
外国語学部  
留学生別科  
国際言語学部  
中国交流センター

外国語学研究所  
英米語学科  
スペイン語学科

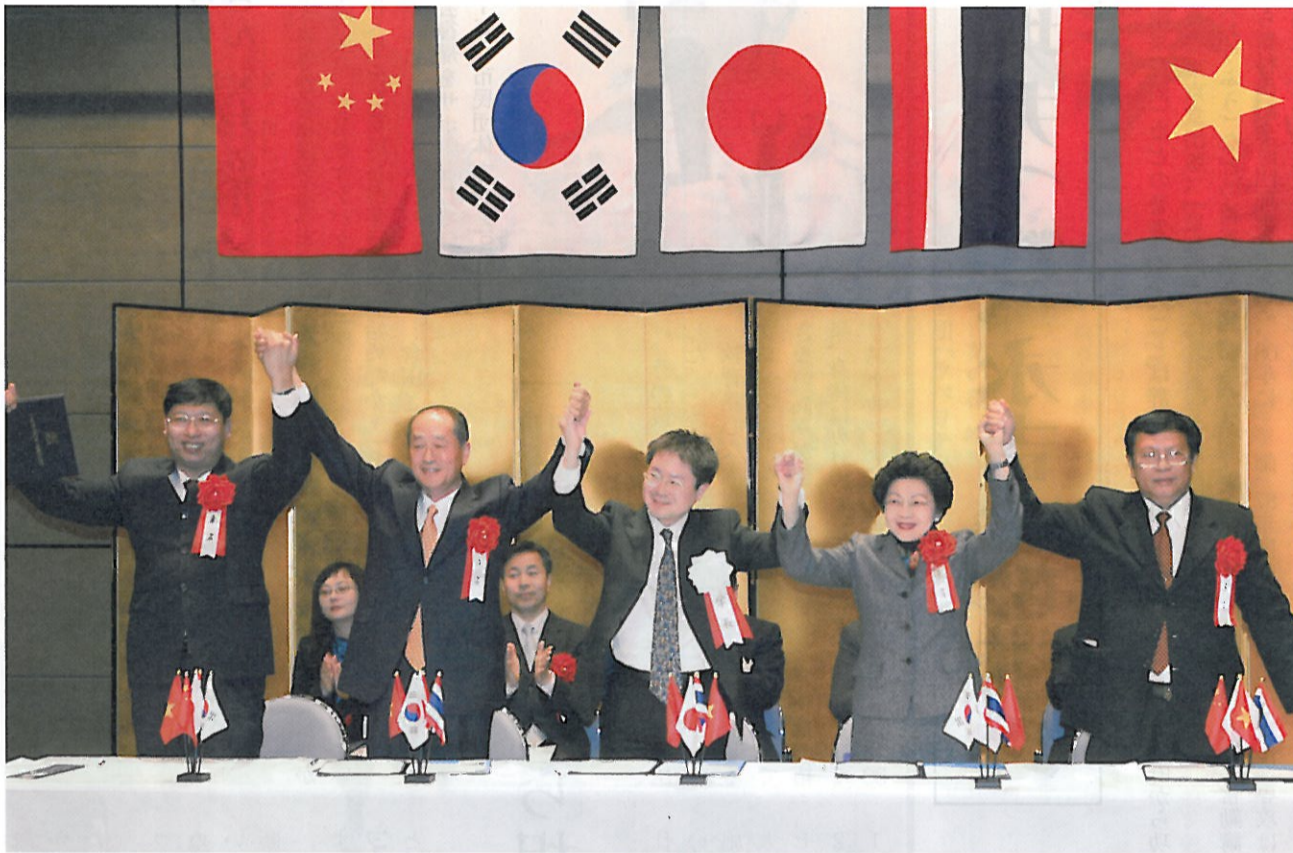
英語学専攻博士課程前・後期  
言語文化専攻博士課程前・後期

関西外国語大学短期大学部

英米語学科

関西外大の最新ニュースはホームページにも掲載しています  
<http://www.kansai.gaidai.ac.jp/>

# 「ASEAN+3」中、韓、タイ、ベトナムの4大学招き 大学コンソーシアムの調印式



次世代のアジアを担う国際人の育成を目的とした「ASEAN+3」大学コンソーシアムの包括提携調印式が3月30日、中宮キャンパスのマルチメディアホールで、谷本義高大学学長と中韓、タイ、ベトナム4か国の4大学学長が出席して行われた。これによって、本学が提唱し、2008年度の文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定された大学コンソーシアムが正式に発足した。

調印された協定書によるとコンソーシアムの目的は「学生、教職員の相互交流を通して、世界平和や対立のある2国間の関係修復の促進、持続可能な経済と社会の発展、アジア諸文化間の相互理解に貢献すること」。

その目的達成のため、▽参加大学は学生の相互交流を推進するよう努力する▽参加大学は自大学と留学先大学の二重学位を取得できるシステムを確立するため協力する▽参加大学は英語による授業科目を増やすよう努力する▽参加大学は、プログラムの参加学生の卒業が遅れないよう単位認定の仕組みをつくる▽コンソーシアムの事務局を関西外大に置く、などの基本的合意を明記している。

調印式は午後3時に開会。谷本榮子理事長が歓迎の辞を述べた後、本学吹奏楽部のファンファーレ演奏。続いて、谷本学長、中国・天津外国語学院の修剛学長、韓国・釜山外国語大学の柳宣圭総長、タイ・バンコク大学のマサナ・サンテイワット学長、ベトナム国立社会・人文科学大学ホーチミン校のヴォ・ヴァンセン学長の5人が協定書に署名した。署名後、5学長は立ち上がり手を取り合って友好を確かめ合い、調印式を記念した盾が贈られた。

来賓の文科省・織田雄一高等教育局留学生交流室室長補佐の祝辞に引き続き、5学長がコンソーシアムに寄せる期待を込めてスピーチした。調印式には、4か国の在阪の総領事や領事、竹内脩枝方市長も出席した。



理事長 谷本 榮子

本日誕生するこの大学コンソーシアムは日中韓3国をはじめ、アジア諸国の絆を一層深め、強固なスクラムを組んで次世代のアジアを担う若者たちを育成していくことに最大の眼目を置いてお

## 歓迎の辞

ります。コンソーシアムの核となる大学の協力をベースとし、アジア諸国の学生たちに、さまざまな言語や文化を学ぶ機会を、できるだけ多く提供しようという試みです。21世紀を担う若者たちの視野を大きく広げ、その可能性を最大限に引き出していくものと確信しております。

私はこれまでも、そしてこれからも、国際交流に大きな夢と希望を抱いています。私たちが近い将来直面する、さまざまな課題に対し、新たな展望を切り



## 文科省・織田氏が講演 「留学生30万人計画」

「ASEAN+3」大学コンソーシアムの協定書調印に先立って、3月30日に文部科学省留学生交流室の織田雄一氏が「留学生30万人計画」と今後の取組」と題し、教職員らを対象に中宮学舎で講演した。2008年5月現在で海外からの留学生数は全国で約12万4000人。2020年までにこれを30万人にする計画について趣旨などを説明し、留学生受け入れの先駆的役割を果たしてきた本学への期待などを話した。

## Agreement for ASEAN Plus Three: University Consortium (抜粋)

### 2. Agreement

- 2-1. Participating institutions shall strive to promote the active exchange of students among the countries represented in order to increase awareness about the needs and interests of Asian countries.
- 2-2. Participating institutions will work together to establish a system through which participating undergraduate students will be able to earn degrees from their host institutions within a two-year period of study at the respective host institutions.
- 2-3. Participating institutions will make efforts to develop and/or increase the number of courses taught in English so as to allow more opportunities for participating exchange students without requiring that they master the language of their host countries.
- 2-4. Participating institutions will create a mechanism to add credits that they award to those which are awarded overseas. That is, students' timely graduation from their home institutions should not be jeopardized due to participation in this program.
- 2-5. Sub-agreements/memorandums may be drawn between any two specific institutions as necessary. The terms and conditions in such agreements shall be within the guidelines of this Agreement.
- 2-6. Administrative Coordinator: Kansai Gaidai will act as an Administrative Coordinator (hereinafter referred to as AC). This means Kansai Gaidai will assume an administrative role in order to facilitate the smooth operation of the consortium activities, while remaining an equal partner among equals. Kansai Gaidai shall also act as a coordinator among the member institutions if/when items for discussion or amendments are brought up.

# 5 学長 スピーチ

- 谷本学長 「創造力を共有し大きく前進しよう」
- 修学長(中) 「未来の社会に必要な人材を養成しよう」
- 柳総長(韓) 「実務レベルで共同活動計画の検討を」
- マサナ学長(タイ) 「第3の言語とアジアの文化を学ぼう」
- ヴォ学長(ベトナム) 「コンソーシアムで叡智 分かち合おう」



**関西外国語大学 谷本 義高学長**

私は、加盟大学の学長の熱い決意をお聞きし、深い感銘を受けました。教育機関の重要な役割は、人材育成に必要な基盤を提供することです。これにより文化の違いを「価値」と認め、



**天津外国語学院 修 剛学長**

この協定に参加するすべての大学に対して敬意を表します。それぞれの大学が、未来の教育に関する展望と見識を持ち、国際的な視野を兼ね備えた人



**釜山外国語大学 柳 宣圭 総長**

アジアにおける5か国の大学がこのようなコンソーシアムを組むことは希有であり、大きな意義をもつものでもあります。今回の調印式は、歴史的な一歩

であり、高等教育におけるこれからの輝かしい未来と繁栄を象徴するものであります。ここに集まった5大学は、単位認定、学生や教員の交流・交換制度など、お互いに有益なプログラムを確実に実行することにより、近い将来、実質的な効果を生み出せるものであると、強く信じています。

釜山外国語大学は、包括提携協定に基づく共同プログラムの実施に最大限の努力を惜しまないことを宣言すると共に、ぜひ近い時期に、この5大学において、共同活動計画や友好関係を促進できるようなプログラムについて、実務レベルでの話し合いができることを楽しみにしています。

現在や将来に直面する問題解決のための最善策を探求し、アジア諸国の発展に寄与したいと願う人材を生み出すことができるのです。どんなプロジェクトでも成功の鍵は人材育成にあります。

アジアは、世界の人口の約60%を占めています。私たちの試みが、アジアを活気に満ち溢れた地域にする原動力となれば、世界各地にも良い影響を与えるはずで、世界各地にも良い影響を与えるはずで、大学コンソーシアムは、小さな第一歩かもしれないが、1大学だけでは数歩しか歩めないことも、ここに会った私たちが資源や創造力を共有しながら協力すれば、もっと大きく前進することができるはずで、

材を養成することを目的とし、学生の未来に対する強い責任感を持つてこそ、関西外国語大学が提起したこのプログラムで、共に歩み、共に参画することができるでしょう。

21世紀は挑戦と希望に満ちあふれた世紀です。昨今の緊迫した情勢は、ビジネスのグローバル化と同時に、各国間の文化交流を継続することの重要性や、調和のとれた世界を創造する必要性をわれわれに示しています。調和のとれた世界発展の礎の一つは、異文化コミュニケーションを実施できる未来の人材の双肩にかかっています。さらなる協力を通じて未来の社会に必要な多くの人材を養成しましょう。

持って積極的に中国の日本語教育、日中交流、関西外大との交流、次世代の国際的視野をもつ人材育成のため最善をつくします」と謝辞を述べた。本学は1999年にスペインのノーベル賞作家カミロ・ホセ・セラ氏に、2002年にドミニカ共和国のイポリト・メヒア大統領に名誉博士号を贈っている。

授与式は新衛衛・中国交流センター所長の司会で行われ、まず、谷本義高大学学長が授与の辞を読み上げた。その中で、修学長が中国の大学学長でただ一人の日本語学科出身者であり、中国における日本語教育・研究の第一線でリーダーシップを発揮してきたことを強調、天津外国語学院が本学の教育GP『ASEAN+3』大学コンソーシアム

授与式は新衛衛・中国交流センター所長の司会で行われ、まず、谷本義高大学学長が授与の辞を読み上げた。その中で、修学長が中国の大学学長でただ一人の日本語学科出身者であり、中国における日本語教育・研究の第一線でリーダーシップを発揮してきたことを強調、天津外国語学院が本学の教育GP『ASEAN+3』大学コンソーシアム

授与式は新衛衛・中国交流センター所長の司会で行われ、まず、谷本義高大学学長が授与の辞を読み上げた。その中で、修学長が中国の大学学長でただ一人の日本語学科出身者であり、中国における日本語教育・研究の第一線でリーダーシップを発揮してきたことを強調、天津外国語学院が本学の教育GP『ASEAN+3』大学コンソーシアム



**ベトナム国立 社会・人文科学大学ホーチミン校 ヴォ・ヴァンセン 学長**

**バンコク大学 マサナ・サンテイワット 学長**

アジアを知り、アジアを背負う次世代国際人の養成を基軸とし、国際教育と研究の促進を掲げる『ASEAN+3』大学コンソーシアムは、学生にとっても、地域社会にとっても、大変有益なプログラムであり、心から賛同いたします。



授与式は新衛衛・中国交流センター所長の司会で行われ、まず、谷本義高大学学長が授与の辞を読み上げた。その中で、修学長が中国の大学学長でただ一人の日本語学科出身者であり、中国における日本語教育・研究の第一線でリーダーシップを発揮してきたことを強調、天津外国語学院が本学の教育GP『ASEAN+3』大学コンソーシアム

授与式は新衛衛・中国交流センター所長の司会で行われ、まず、谷本義高大学学長が授与の辞を読み上げた。その中で、修学長が中国の大学学長でただ一人の日本語学科出身者であり、中国における日本語教育・研究の第一線でリーダーシップを発揮してきたことを強調、天津外国語学院が本学の教育GP『ASEAN+3』大学コンソーシアム

ASEAN諸国において、大学は思考形成のシンクタンクであり、人材育成という重要な役割を担っています。今回のコンソーシアムは参加大学の交流を促進し、互いの叡智や経験を分かち合う、価値ある時間を与えてくれる素晴らしい機会であると受け止めています。

東アジアの国々は文化的バックグラウンドに多様性があるものの、共通のアイデンティティ(同一性)を持つており、コンソーシアムを発展させるうえで、大きな手助けとなってくれるでしょう。

私はいいつも、学生に対し英語だけでなく、第3の言語を習得し、アジアとその文化について学んでほしいと願っています。このプログラムで派遣される学生は、相手国の大学で2年間学ぶことが可能であり、1、2学期単位だった従来の留学プログラムとは大きく一線を画しています。

このあと、理事長が名誉博士の学位記を授与。フドをかけられた修学長を国際言語学部の入学生と保護者が拍手で祝福した。

授与式は新衛衛・中国交流センター所長の司会で行われ、まず、谷本義高大学学長が授与の辞を読み上げた。その中で、修学長が中国の大学学長でただ一人の日本語学科出身者であり、中国における日本語教育・研究の第一線でリーダーシップを発揮してきたことを強調、天津外国語学院が本学の教育GP『ASEAN+3』大学コンソーシアム

授与式は新衛衛・中国交流センター所長の司会で行われ、まず、谷本義高大学学長が授与の辞を読み上げた。その中で、修学長が中国の大学学長でただ一人の日本語学科出身者であり、中国における日本語教育・研究の第一線でリーダーシップを発揮してきたことを強調、天津外国語学院が本学の教育GP『ASEAN+3』大学コンソーシアム

ベトナムはいま、さまざまな改革に取り組み、各国の経験や叡智を吸収したいと願っています。このコンソーシアムは、私たちの願いに合った絶好のチャンスであり、コンソーシアムの発展のため、可能な限り貢献し、責任を全うしたいと決意しております。



相互理解は、私たち近隣の者同士により良い協力関係を生み出します。世界が試練に遭遇しているいま、このプログラムがアジアの教育機関の素晴らしい協力・交流活動の一例となることを願っています。

授与式は新衛衛・中国交流センター所長の司会で行われ、まず、谷本義高大学学長が授与の辞を読み上げた。その中で、修学長が中国の大学学長でただ一人の日本語学科出身者であり、中国における日本語教育・研究の第一線でリーダーシップを発揮してきたことを強調、天津外国語学院が本学の教育GP『ASEAN+3』大学コンソーシアム



レセプションでパイレーツが祝福の演技

# 北方工大の13人が穂谷へ

## 初の学位留学生、3年次に編入

### 「ASEAN+3」第1号

中国の単位互換提携校、北方工業大学(北京市)の学生13人が9月に、国際言語学部の3年次に学位留学生として編入する。この春、発足した「ASEAN+3」大学コンソーシアムプロジェクトの受け入れ第1号で、卒業時に本学と北方工業大の「二重学位」取得をめざす。また、大学院にも、西安外国語大学など中国2大学の4人が9月に入学する。

3年次編入学が決まったのは、北方工業大文法学院日語系に在学中の2年生の男子1人、女子11人と現在、交換留学生として国際言語学部で学んでいる男子学生1人。同大の学長の推薦を受け、書類選考で合格、6月と7月の国際言語学部学教授会で承認した。全員が中国語コミュニケーションコースに入

り、2年間にわたって学部の授業を受講する。

海外からの学位留学生受け入れは、学部レベルでは初めて。13人が所定の単位を取得すれば、2011年9月の卒業時に両大学の学位を授与する。

本学と北方工大は昨年春、国際言語学部の3年次編入生として10人前後を受け入れる、選考は学長推薦で行うなど、で合意している。

また、この3月には、文科省の「教育GP」に採択された日中韓3国などによる「ASEAN+3」大学コンソーシアムがスタートしたことから、今回の学位留学生受け入れをプロジェクト第1号に位置付けた。

13人は穂谷学舎の中国交流センターにある宿泊施設に約半年間入った後、大学の紹介する民間マンションなどに移る。入学金全額と授業料の半額は免除される。

一方、大学院には、西安外国語大学の女子学生2人が言語文化専攻前期に、同大と大連外国語学院大学院の女子学生各1人が同後期に入学する。4人は外国人留学生海外提携大学推薦入試に応募し、合格した。

### 英語教育インターン生 豪から穂谷に3人受け入れ

本学は、国際言語学部に豪州の学生を対象とする「英語教育インターンシッププログラム」を導入することを決め、提携大学のフリンダース大学(アデレード)を窓口にして希望者を募っている。募集人数は3人で、書類選考などを経て、11月には受け入れる。

恒例の「外交講座」が6月23日、中宮学舎のマルチメディアホールであり、外務省国際協力局多国間協力課の石原猛さんが「人間の安全保障の現状と課題」と題して講演した。写真。テーマは、地球上の紛争、テロ、環境破壊、通貨危機、感染症、貧困などあらゆる恐怖と欠乏に直面する一人ひとりが対処する方策。遠隔授業システムを使って穂谷学舎にも中継され、大学院や外国語学部、国際言語学部、短大部の学生計約200人が受講した。

### 「人間の安全保障」とは 外交講座に200人

現代社会は、紛争やテロなどの「恐怖」と、通貨危機や環境破壊、貧困などの「欠乏」がたやすく国境を越え、個人が脅威に直面する特質がある。これに対処する「人間の安全保障」について、石原さんは「保護」と「能力強化」によって個人が脅威に立ち向かえるようにし、社会や国づくりを進めるという外

務省の考え方を紹介した。「人間の安全保障」登場の背景には、グローバル化の進展▽冷戦の終了▽気候変動――など国際情勢の変化がある。石原さんは「ヒト・モノ・カネの地球規模の移動により、金融危機、通貨危機のほか、HIVや新型インフルエンザといった感染症などが、瞬く間に世界に広がる。また、冷戦構造の崩壊により、内戦が頻発し、武器管理も困難になっている」と説明した。

# 09年秋派遣留学生代表 決意表明(要旨)



外国語部英語学科 久保 舞さん (交換留学、仏PGSMビジネス大学連合)

私にはパレル会社を経営したいという夢があります。基礎美容法の会社を経営している母の影響です。自分の好きな仕事に没頭できる母のようになりたいと思っています。

ファッションに興味を持ったのは昨年夏アメリカに留学したときの経験からです。イタリア人の友だちから「日本人はともおしゃべりだ」と評され、日本のファッションを世界に広げていきたい

私にはパレル会社を経営したいという夢があります。基礎美容法の会社を経営している母の影響です。自分の好きな仕事に没頭できる母のようになりたいと思っています。

私にはパレル会社を経営したいという夢があります。基礎美容法の会社を経営している母の影響です。自分の好きな仕事に没頭できる母のようになりたいと思っています。



外国語部英語学科 貞光 裕二君 (2カ国留学、1年目米イスタンブール大学、2年目フィンランド・ヨエンス大学)

柔道一辺倒だった高校時代、けがのため進路変更を余儀なくされました。その

とき、副担任の勧めで本学のオープンキャンパスに来て、留学から帰国した外大生の話を聞いたのがきっかけ。「私も留学しよう」と決心。鬼のように頑張って英語の勉強に取り組み、無事合格できました。

柔道一辺倒だった高校時代、けがのため進路変更を余儀なくされました。その

とき、副担任の勧めで本学のオープンキャンパスに来て、留学から帰国した外大生の話を聞いたのがきっかけ。「私も留学しよう」と決心。鬼のように頑張って英語の勉強に取り組み、無事合格できました。

## 留学からの帰国生のための 就職ガイダンス



長期留学からの帰国生を対象とした就職ガイダンスが、5月30日、6月13日、同27日に中宮キャン



実践として、政府開発援助(ODA)と「人間の安全保障基金」2章の根・人間の安全保障無償資金協力を紹介した。

### PICK UP!!

■学生証が変わります

現学生証は来年3月まで 本学は、平成22年4月より新しい学生証を導入することになった。現在の学生証は、平成22年3月末に期限切れとなる。

新学生証は、現学生証と同様ICチップ内蔵だが、かざすだけでデータを読み取ることができるようフェリカ・カードになる。また、現学生証ではVISAクレジットカード機能を付けることができたが、新学生証では全員の学生証に電子マネー機能(Edy)がつけられ、あらかじめチャージすることで、証明書自動発行機で証明書や申込書を手でできる。キャンパス外でも、Edyの読み取りレジのあるコンビニなどの店で、キャッシュレスで買い物ができる。

新学生証は、来年3月中旬の新学期別履修登録ガイダンス時より、現学生証と引き換え、現学生証はクレジット機能の有効期限に限らず平成22年3月末で回収され、ICチップへの課金残高は、新学生証に移管されない。来年3月中旬までに使い切っておく必要がある。

留学中(来春の春学期語学留学・研修も含む)の学生は、帰国後に交換する。詳しくは留学のオリエンテーション時に説明する。

パスであり、合わせて約150人が参加した。まず、キャリアセンターの藤岡弘樹主任が今年度の採用活動や狙える業種・職種について説明、「各社には一般に知られた業務とは別の仕事をしているケースが少なくないので、個々の企業を詳しく調べよう」と注意を促した。このあと、リクルートのスタッフが応募先の探し方、留学生にふさわしい自己PRの方法などを解説、6月段階では、就職情報サイトには有力情報がほとんど掲載されなくなるとの指摘があった。各社のホームページで補充募集がないかをこまめにチェックすることが大切といえそう。

# Hello! 海外からの@メール

スウェーデン・ヴェクショー発

## 短期間完結の科目に集中して取り組んでいます

外国語学部英米語学科 荒瀬さやかさん(交換留学・ヴェクショー大学)

私は今、スウェーデンのヴェクショーという町で生活しています。環境に対する高い意識と、美しい自然をもつ都市です。ここでの留学生活が始まっては3週間。すでに数えきれないほどのイベントに参加し、現地で“FIKA”と呼ばれるティータイムを毎日行い、大学周辺の湖を走り回っています。

こちらの授業にも少しずつ慣れてきました。私は、主に教育と福祉を専攻しています。スウェーデンでの授業の取り方は、日本とはとても違って、(授業にもよりますが)科目が短期間で完結していくので、一つの科目により集中することができます。自主学習の時間もたくさんあるので、有効に学べるかどうかは

全て“自分次第”ということに気付かされます。

時間がゆっくり流れているように感じる毎日ですが、日本や世界の動きをしっかりキャッチしていこうと思います。今はまだ日照時間が長いので気持ちのよい日が続いていますが、冬になり辺りが暗くなっても、各国からのお友達とキャンドルナイトを楽しもうと思います。



クラスメート

シンガポール発

## 英語と中国語を学べる シンガポールに留学でき、感激です

国際言語学部 上田 竜也君(交換留学・シンガポールマネジメント大学)

Hello, 你好, Vanakkam, Apa khabar, このように書き始めたのは、シンガポールで公用語とされている言葉をより知っていただきたかったからです。順に英語・中国語(北京語)・タミル語・マレー語です。英語は誰もが話せる公用語。シンガポールに住む人の多くが中国系で、中国語も頻繁に聞きます。常々英語・中国語の両方を更に深く学びたいと思っていたので、留学出来て大変嬉しく思います。留学してまだ1か月ですが、すぐに馴染む事が出来たのも、関西外大での勉強のお陰だと思っています。

ところで、シンガポール人の第一印象は「大変勤勉で、思いやりのある優しさ」でした。というのも、電車の中では、いつも年配の方、妊婦の方、子連れの方、障害者の方を見ると、どんなに電車が込んでいようと即座に皆が席を譲ります。

大学が始まる前に少々体調を崩しが



右から2人目が上田君

ちでしたが、学内の担当医に診察を受け、処方薬まで出して貰い、しかも無料で、それが大きな驚きでした。また、学生主体のクラブや団体がたくさんあり、私はソフトボールクラブに参加し、交流の幅が広がっています。学生達は学業にとっても熱心で、試験前には図書館で泊まり込みの勉強をする学生もいます。私も彼らに負けないよう1日1日を大切に、切磋琢磨していきたいと思っています。

## 米FD研修同行記 みっちりWorkshop 本学の9教員

本学教員9人が、9月6日から同17日までの日程で、米・ウイスコンシン大学オクレア校でFD研修を受講した。教育GP「ASEAN+3大学コンソーシアム構想」の一環で、参加教員の真剣な取り組みを実感した12日間だった。(教育GP推進室・藤田由美子)

到着後、オクレア校のFD研修責任者、ジル・パストラナ教授の出迎えを受け、翌日は参加者の一人、松田健教授の知人の紹介で現地の家庭を訪問、英気を養った。8日から研修スタート。初日はワトソン教授のWorkshop「構成主義教授法について」、デ・パウ教授のWorkshop「東南アジアからの移民について」を受講、活発な意見交換が行われた。Workshopは14日(マッキンタイヤー教授「学習意欲向上法」、コリス教授「同教授の著書を基にした学習意欲向上法」)、15日(ウォーリー教授「クラスマネジメント」、パストラナ教授「教育学について」、パティ教授「クラスの作り方について」)にもあり、最終日にはWorkshop担当教授と研修参加教員が集まって、研修の感想や、今後の授業にどう生かすかなどについて意見交換が行われた。

この他にも、現地の学生に交じた授業参加、地元の小学校・中学校・高校の授業参観や地場産業訪問、アメリカ中西部の開拓史を扱った博物館見学など、大変欲ばりなスケジュールだったが、全面的な協力をいただいたオクレア校のおかげと感謝している。

(参加教員) 外国語学部・新垣修教授、窪田光男教授、松田健教授、酒井英一准教授、朴育美講師、国際言語学部・内田智裕教授、谷本和子教授、生月亘准教授、短期大学部・笠井正隆准教授

アメリカ・オルバニー発

## 簡単に答えに辿り着かないからこそ、哲学は面白い

外国語学部英米語学科 吉田 文哉君  
(大学/大学院学位留学・ニューヨーク州立大学オルバニー校)

ニューヨーク州立大学オルバニー校で哲学を専攻しています。「哲学を専攻にしていると、将来就職に役に立たない。哲学なんて理解が難しい」と現地の学生からも言われます。ビジネスなどについて学ぶことはほとんどありませんが、過去の哲学者を通して物事について様々な考え方を学ぶので、最終的には就職や後々の生き方に役に立つと思っています。

今、授業で扱っているテーマは「心



友人の家で

身二元論」。心と体の関係の問題をクラス内で、議論しています。哲学なので、現地の学生でさえ理解し難いところも

多々あり、ましてや英語が第二言語である私にとっては、彼らの倍以上の努力が必要です。そのテーマに対して明確な答えはありません。しかし、哲学は自分の考えを納得させることができるよう議論を組み立てていくのが醍醐味です。簡単に答えに辿り着かないからこそ、哲学がより面白くなると思います。難しいですが、自分の興味を持った分野だからこそやりがいがあります。

二年目の留学の秋学期が始まり、忙しい日々を送りつつ、留学中、自分に興味のあることには、将来に直接結びつくかどうかにかかわらず、できるだけ挑戦していきたいと思っています。

## Speech by Incoming Student Representative

### Life Changing Challenges

Danielle Lagman (Saint Louis University Madrid campus, Spain)

I am Danielle Lagman. I'm originally from the United States of America, specifically Boston, Massachusetts. I am currently a third year student from Saint Louis University Madrid campus. For the last two years of my undergraduate career I have been studying Business Administration with a concentration in International Business and English Literature at an American university in Spain. Essentially, in coming to Japan, I am studying abroad while studying abroad.

Studying internationally has inspired me to want to see other countries. I have come to Japan hoping to study different forms of Asian Business- topics that are not offered at my current university. And of course, I am also very much interested in the Japanese culture and language. I would like to learn about and be immersed in the Japanese culture. From the way people speak to the way people eat. I want to be able to see the similarities and differences between this culture and the two that I am already part of: American and Spanish. A key factor that will help me understand the culture more is the language. I would like to learn the language not only in the classroom, but also through new friends and experiences that happen outside of the classroom atmosphere.

I had never studied the Japanese language until last spring. In comparison to a lot of you, I'd be considered to be a late bloomer. Nevertheless, I am determined to learn the language, even just a little bit. The problem with being in a foreign country and not knowing the language is being in a foreign country and not knowing the language. And I know that it is a bit unorthodox to do what I'm about to do next, because technically I'm standing in front of you today to give you advice from one international student to another. What I'm trying to say is that I'm asking you for your help. And by you, I mean each and every person sitting in this crowd. Studying internationally, away from the comforts of my home, my family, my bed, made me realize that I can't make this trip alone. And I'd really like to meet a person who can. Because to me, another major reason to study abroad, among learning the language, studying courses not offered at our universities, or traveling, is the basic need to be social. As much as it is important for us to study, it is also important for us to make friends. So really, this principle doesn't just apply to me, it applies to all of us.

So I hope that what you get from this speech is more than a list of my credentials and some of my insecurities. I challenge you to stand in front of an audience of over 450 people and ask them all for help. I challenge you to break out of your comfort zone. Don't be afraid of being corrected. Don't be afraid to ask for help. And I know we are only here for a limited time, maybe a semester or two, but above all: I challenge you to remember that every decision that you make here, every experience that you have here, and every relationship that you create here will somehow change your life.



Vol.13

研究室から

国際言語学部

江平

英一教授

# 4年後に問われる真価 国際メディア英語コース



## 生きた英語が教材

国際メディア英語コミュニケーションコースは、順調なスタートですね。

江平 コース内容説明会で、相当に厳しい指導をするつもりだから、覚悟しておくようにと、言っておいたのですが、それでも全体の4分の1強の211人が集まりました。いまの時代の英語で話されたこと、書かれたことを理解し、自分の考えを英語で発信する能力を養成しようというコースの目標が学生に受け入れられたからでしょう。

——コースの教育の特徴は何ですか。  
江平 文法の仕組みを理解することと語彙を増やすことなど英語学習の基礎を学ばせることです。1年次の春学期には、英語の文法力を鍛えます。「高校の焼き直し」とやる気をなくさないよう、新聞やインターネットの文例を使って、「これがわかれば、この文章が読み解けるでしょう」というように、生きた英語と直結して文法を教えます。また毎時間、単語の小テストをし

自分の好きな音声教材を選びディクテーション、テキストと照らし合わせて修正、さらに聞き直します。記録はレポートとして提出させます。

このように、読み、聞くインプットは日本人教員が担当しますが、ネイティブ教員が担当するのは、アウトプットの部分で、1年次には基礎として、英語を口から出す訓練をします。

## 3年次生には発信力高め 英字新聞への投稿も

——自分の意見を発信するためにどんな工夫をしていますか。

江平 国際言語学部では、今年度から新カリキュラムで、1年次にアカデミックスキルズという科目が新設されました。これは、与えられたテーマについて資料を集め、アイデアを整理して、日本語で原稿をまとめるまでを勉強します。書く項目を紙に書き付け、順番をどうするかを考え、読む人にわかりやすい文章を練ります。書くことに苦手意識をなくしたいのです。4、5人のグループに分かれ、自分たちで問題の解決案を出させることもやります。

## 「耳を澄ます」訓練を徹底

——徹底的に英語漬けにしているわけですね。

江平 学生には、多読を義務付け、学習の易しい本を1学期に500ページ読むよう求めています。レベルは6段階に分かれていますので、学習が進めばより高度なものに進むことができます。やみくもに読むことで、英語の感覚が自然と身につきます。もう一つの特徴は、コース受講生全員が受講している「トイフル・スコアアップ」で行っている「耳を澄ます」訓練です。

江平 学生には、多読を義務付け、学習の易しい本を1学期に500ページ読むよう求めています。レベルは6段階に分かれていますので、学習が進めばより高度なものに進むことができます。やみくもに読むことで、英語の感覚が自然と身につきます。もう一つの特徴は、コース受講生全員が受講している「トイフル・スコアアップ」で行っている「耳を澄ます」訓練です。

## 大学院で英詩の文体を研究

——どんなきっかけで英語教育を?

江平 外国語学部3年のころ英語の通訳になりたいと思い、通訳の専門学校に半年近く通いました。ところが、周りは日本語を聞いたら直ぐに英語が出てくるような人ばかり。「自分にはまだまだ英語運用能力が足りない」と気づかされ、大学院に進学しました。大学院では英語学を専攻し、修士論文では18世紀に活躍したイギリスのアレクサンダー・ポープとサムエル・ジョンソンの詩の文体を擬人法の観点から分析しました。

大学院の2年のとき、万代学舎にあった短大のLL教室のアルバイトをし、そのあと、今ではなくなりましたが夜間部の英文法担当の非常勤講師に採用されました。穂谷キャンパスには、万代から短大が移転した最初の年からいますから、穂谷とともに歩んできたと言えるでしょう。夜間部には社会人も多かったから、どんな質問が出てくるか、戦々恐々でした。

## 多読の勧め

——ご自身の勉強で身についたと思うことは何ですか。

江平 英語の本を読むことが好きで、学生時代、最初に手にしたペンギンブックスの「日本の歴史」を読み終えて自信が出てきました。そのあとはアメリカやイギリスの作家の小説を読んでいます。アクションものが好きで、今でも手放せません。本を開けば即、別世界に入り込めます。私が学生に多読を勧めるのは、読むことで英語が身についたと実感できるからです。

## プロフィール

関西外国語大学外国語学部英語学専攻。同大学大学院英語学専攻修士、文学修士。修論は「A Study of Matthew. 1979年関西外国語短大第二米英語学専攻助手。同学は92年米英語学専攻2000年国際コミュニケーション学専攻と名称変更されるが、閉鎖される前年の08年まで所属。99年、教授に昇任、短大教務部長を務めた。08年国際言語学部に転籍した。現在は穂谷キャンパスのFD委員。

## 英語学習テーマにネイティブ教員が発表

### FD委員会ワークショップ

今年度1回目となるFD委員会ワークショップが、9月19日午後、中宮学舎多目的ホールで開かれ、国際言語学部の2教員が発表したII写真。



一人目のリチャード・ハンフリーズ准教授は「英語科目で試してみたメディア教育活動」と題し、英語技能科目に情報発信活動を盛り込んだ授業実践を2例紹介した。第1例では、二人目の発表者はジェームズ・ロジャーズ講師。「既知語彙から未知語彙を攻略する方法」を紹介した。大学1年生で重要英単語3000のうち61%は借用語等ですべてに理解できていることを指摘し、残りを効率良く習得させるために、これら既知語を有効活用させることを提案、そのための具体策も提示した。

## PICK UP!!

### 「ASEAN+3」大学 コンソーシアムの概要説明 外部評価委員会

文部科学省選定の教育GPF「ASEAN+3」大学コンソーシアム構想の外部評価委員会が10月8日、中宮キャンパス本館であり、出席した4委員に本学から取り組みの進捗状況について説明、委員からの質問に答えた。



出席した委員は、太田慎一静岡大学国際交流センター教授、山本憲治関西経済連合会常務理事、劉占山在大阪中国総領事館領事、崔德燦在大阪韓国総領事館教育担当領事。谷本義高大学学長が構想の背景、取り組みの概要、本年10月までの経緯、これから11年2月までの予定を説明した。

### 海外特派員が穂谷で講演

国際言語学部国際メディア英語コミュニケーションコースの第5回コース・ミーティングが10月17日、穂谷キャンパスで開かれた。毎回、英語を駆使しての取材・報道に携わったメディア関係者が講演しており、この日の講師は、今年3月まで毎日新聞アジ

ア総局長を務めた藤田悟さん(現大阪本社編集制作センター部長代理)。「東南アジアの英語事情」をテーマに、11年に及ぶマニラやバンコクでの取材体験をわかりやすく話した。藤田さんは「日本人は『話す英語』が苦手だが、文法がしっかりしているのが通じやすい。政治や経済の場ではアジアでも英語が主流。みなさんも頑張ってください」と励ました。

### 研究論集90号刊行

本学教員の研究成果を発表するための「研究論集」90号が9月に刊行された。論文4題、研究ノート2題、教育研究報告4題を掲載している。研究論集は、72号以降の掲載論文を電子化、インターネット上で公開している。(http://opac.kansai-gaidai.ac.jp/eh/index.html)

90号の掲載論文は次の通り。

John Drake の現実受容の世界観 — Saul Bellow との比較において (相原和子)▽ジョルジュ・サンドの『愛の妖精』における『妖精』について (平井知香子)▽リアリスト・エウリピデス — エウリピデス『嘆願する女たち』考 (丹下和彦)▽戦略的人的資源管理 (SHRM) の理論とその分析枠組みとしての有効性 — バングラデシュに進出した日系企業の事例調査を踏まえて (内田智大)

# 春派遣留学生109人に合格証書授与

## 学長「日本を勉強して出発を」

今春派遣される長期留学生の合格証書授与式が1月22日、中宮キャンパスのマルチメディアホールで開かれた。合格証書を授与されたのは、9か国27大学に派遣される109人。内訳は1

年半の英語/推薦留学が2人、1年の交換留学53人、英語/レギュラー留学48人、中国インターンシップ(日本語)6人となっている。式ではまず、谷本義高大学学長がプ



合格証書を手喜びの派遣生たち

ログラムごとの代表に、合格証書を授与した。その後、谷本学長は式辞を述べ、「苦難の道のりの出発点ですが、今日本のことを勉強しておいてほしい。留学先では、あなたが一人ひとりが親善大使。恥ずかしくない行動を取って下さい」と注文した。続いて、山本甫国際交流部長が「英語をマスターするだけではすまない時代にきている。その次にある専門知識や技術を身に付ける覚悟をし、準備する必要がある。留学はその手段。大きなチャレンジを経験し、人生を切りひらこう」と激励。留学準備コースの代表として、ガー・レイノルズ准教授は「New Beginning」(New Begins)と日本語の「一期一会」という3つのキーワードを掲げ、「留学は新しいことを始めるチャンス。この言葉を忘れないで」と祝辞を贈った。

最後に派遣学生代表として、国際言語学部2年、長谷川華さん(豪州スウィンバーン工科大学・交換留学)と外国語学部英米語学科2年、山田恵莉さん(米コロラド大学ボルダー校・英語/レギュラー留学)が留学の決意表明を行った。(8面に要旨)

### 英語留学は137人

今春の長期留学生としてはこのほか、英語留学生137人の派遣が決まっている。内訳は豪州の6大学89人、カナダの3大学48人。

### 孔子学院第1回理事会役員・運営組織決まる

関西外国語大学孔子学院の第1回理事会が12月19日、中宮キャンパスであり、本学と協力校の北京語言大学との間で人選していた理事7人(関西外国語大学側)谷本榮子理事長、谷本義高学長、片山智行教授、靳衛衛教授、関西外国語大学孔子学院院长、北京語言大学側)王路江理事長、趙曼・副学長、鄧雲凌副教授。

関西外国語大学孔子学院副院長、趙・鄧両氏は委任状出席)と谷本榮子理事長、王路江副理事長の就任を確認し、了承した。外部から学院の発展に尽力してもらう顧問には、古川裕大阪大学教授(中国語教育学会会長)、曲徳林北京語言大学教授(前学長・清華大学教授(日本研究中心主任)を選任した。

「理事会で決まった運営組織(敬称略)」

①学院運営委員会委員(敬称略) 副主 趙曼、委員 靳衛衛、鄧雲凌、片山智行、趙曼、鄧雲凌

②学院委員会委員(敬称略) 主任 靳衛衛、副主任 鄧雲凌、委員 鄭天剛、黃柏林、戸毛敏美、須山淳一、吉田泰謙、三輪雅人、相原里美、甲斐好則、吉川佳孝

③各センター長(敬称略) 中国語教育センター長 鄭天剛、中国語教員養成センター長 黃柏林、中国語試験センター長 須山淳一、中国留学・就職準備教育センター長 吉田泰謙、現代中国研究センター長 三輪雅人、中国文化活動センター長 相原里美

## ベトナム国立社会・人文科学大学 二重学位協定 今秋スタート予定



協定書を交換する両学長

ベトナム国立社会・人文科学大学と本学との二重学位協定が結ばれた。1月14日、中宮キャンパスで調印式があ

り、ヴォ・ヴァンセン学長と谷本義高大学学長が協定書にサインした。2010年秋季学期からスタートさせる予定だ。同大学は、昨年3月に本学で開催した「ASEAN+3大学コンソーシアム」の包括提携調印式に参加した5大学のうちの1つで、二重学位協定は韓国・釜山外国語大学、中国・天津外国語学院に次いで3校目。

コンソーシアムの学位留学生は釜山外大から今年2月に1人を受け入れ、現在、協定を調整中の韓国・東西大学からも4人が派遣される予定だ。

今回の協定書によると、本学が受け入れるのは1人。外国語学部または国際言語学部の3年次に編入する。外国語学部の場合は、学部と留学生別科で開講される英語による授業を受講し、卒業に必要な単位を取得することになる。国際言語学部の場合は、日本語の授業を受けられるだけの日本語の学力を持つ学生が条件。

一方、本学から派遣する学生は、学位留学の場合は1人で、英語で開講されている「英語学・英文学」・ベトナム語による「ベトナム学」で学位を取得できるが、学位留学に替えてベトナム語集中講座に短期語学留学生を送ることも可能としている。

## 在外公館派遣員に合格 都築君ら3人



授の授業を受け、フランス語のおもしろさに気づいた。3年生の秋からフランス・ストラスブルグ大学へ認定留学。フランス語は「日常生活で困ることはない」までに上達した。

外交官をしている従兄から派遣員の制度があることを聞き、応募を決意。穂谷の図書館で「ル・モンド」を読んで時事問題を勉強、フランス語面接ではそれが役立った。12月中旬、国際交流サービスクラスから合格を伝える電話が入り、希望する任地を返答した。都築君は「もともとアフリカに興味を持っていたので、決まってくれたい。コンゴは企業誘致を進めており、日本企業も進出しようとしているところ。交流の力になれば」と話している。

### PICK UP!!

■キャンパスビートルズDJ 本学が番組提供しているFMひらかた(77.9MHz)「キャンパスビートルズ」を1月から担当するDJが決まった。本学FB放送局の外国語学部英米語学科1年、澤田友里恵さん(写真左)、スペイン語学科1年、梅木麻衣さんの2人。澤田さんは「上手に話せるようになりたかったからDJを志望しました」と話し、梅木さんは「スペイン語を使った放送もしてみたい」と意欲満々。



### 上海外国語大学芸術団公演 350人が堪能

関西外国語大学孔子学院開校を記念した公開講座「上海外国語大学芸術団公演」が、1月18日夕、中宮キャンパス・谷本記念講堂で開かれ、市民や学生ら約350人が、熱のこもった演奏を楽しんだ。

靳衛衛・関西外大孔子学院長(国際言語学部教授)の歓迎のことばに続き、徐宝妹・上海外大国際文化交流学院院长が「今日演奏するのは1、2年生の学生ですが、日本公演に向けて練習を重ねてきました」とあいさつ。同大日本語学科の陳敏さんが流暢な日本語で司会をし、中国の正月・春節を祝う華やかな舞踊でスタートした。

演じられたのは「湖北省の民謡」「モンゴル族の歌と舞踊」、中国の民族楽器(二胡・中阮・箏・琵琶)の演奏技法と独奏、男女の思いを託す歌など17曲。中国語で歌われた「北国の春」では手拍子がわき起こり、締めくくりに日本語の歌「桜」は、舞台の上と観客席が一緒になって合唱し、会場は和やかな雰囲気包まれた。



## 「留学と就職」テーマに内定者がアドバイス 交換留学の4人「経験したことをアピールしよう」

1月中旬、長期留学と就職をテーマにした説明会が中宮キャンパスで相次いで開かれた。12日が学位留学、13日が交換留学で、企業などから採用の内定を得た4年次の帰国生らが体験を語り、約150人の留学予定者や希望者に就職活動などについてアドバイスした。

13日の「交換留学と就職」はマルチメディアホールで開催。外国語学部の帰国生4人によるパネルディスカッション方式で行われた＝写真。司会は国際交流部・星野晶成さん。

### パネリスト

**田中 歩美さん** 英米語学科  
(留学先=米ウイスコンシン大学ホワイトウォーター校)  
内定先=兵庫県中学校英語教員

**福井志都子さん** 英米語学科  
(留学先=豪エディスコワン大学)  
内定先=アークスリーインターナショナル

**森脇 瑞貴君** スペイン語学科  
(留学先=スペイン・セントルイス大学)  
内定先=SC鳥取(ガイナレ鳥取)

**吉川雄一郎君** 英米語学科  
(留学先=米セントラルミズーリ大学)  
内定先=三信電気株式会社

### —留学中の就職活動は？

**吉川** 商社を志望していて、英語とマーケティングの両方を学ぶために留学した。毎日新しいことが起き、それを追う



## 交流プログラム体験記

### セミナーハウス2

#### まるで大きな家族のよう

外国語学部英米語学科2年 寺村 麻子さん



セミナーハウスで生活した4か月は、本当にあっという間。新鮮で貴重な経験となりました。夜はキッチンやラウンジで勉強し、日本語や英語の宿題をチェックし合ったり、日本料理を作ったり、留学生の国の料理を一緒に作って食べたこともその一つです。

また、ラウンジで夜遅くまで話し合ったことで、さまざまな国から来た留学生の考えや思いを知ることができ、世界観が広がりました。

「セミナーハウス2」は、4つあるセミナーハウスの中では一番小さく、全体が大きな家族のよう。その生活を通して、かけがえのない仲間と出会い、多くの経験を共有することができたことを、本当にうれしく思っています。



### セミナーハウス2

#### 留学生の言葉に感激

外国語学部英米語学科3年 清村かおるさん

4か月間、「セミナーハウス2」で充実した日々を送れました。留学生たちの日本語が、どんどん上達していくのを日々感じることはとてもおもしろく、うれしかったです。また、日本語の宿題のチェック・質問などを通して、改めて日本語について考えさせられました。

さまざまな国の料理やお菓子を作ってくれたり、遊びに誘ってくれたり、相談に乗ってくれたり。素敵な留学生に囲まれた生活は一生の思い出となりました。お別れの時は本当に悲しくなりました。

ある留学生が「こんなに仲が良いところなんて、アメリカにもないよ」と言ってくれたのが一番印象に残っています。ともに生活してきた留学生・RA・日本人ルームメートのみんな、ありがとう!!



を送るといったことをしておくべきだった。大切だと思っていたのは、数字で結果を残すこと。留学先の陸上競技大会でベスト8入りしたことも、アピールできた。**福井** もっと自己分析をしておけばよかったと思う。何がしたいのかと同時に、何ができるのか分析しておくべきだ。

**田中** 自分の経験をアピールできるようにしておいた方がいい。私は留学中、ESLのクラスで教えたり、老人ホームを慰問したりした。帰国後もさまざまな活動に参加した。

## 学位留学で米企業へ

12日は「学位留学と就職」。ニューヨーク州立大学オルバニー校への学位留学体験者で、米企業などから内定を得た3人がボストンや東京などでのキャリアフォーラム参加の体験や、日米の求人・求職方式の違いなどについて話した。

外国語学部英米語学科4年の木戸口愛さんは「マニュアル本を活用したり、友人に聞いたりして情報を集めた」と苦労話を披露した。国際言語学部4年で留学中の田嶋一輝君は「昨年12月ごろデトロイトの監査法人の米人幹部と面接し、内定をもらった。インターンシップに真剣に取り組めば良かった」とアドバイス。外国語学部英米語学科09年9月卒の私部友哉君は「面接も勉強と考えて取り組んだらいい」と話した。



## アジアの魅力を知る 5回シリーズの説明会

アジア留学の魅力をアピールするイベントが12月、国際交流センターで5回にわたって開かれた。参加した延べ約150人の学生の間からは、「アジアへの留学で英語力が伸びる可能性を感じた」などの声が聞かれた。

最も参加者が多かったのは、4日の第3回「留学生との懇談会」。シンガポール、韓国、ベトナム、マレーシア、香港出身の留学生10人がDVDなどを使って、お国自慢や大学の特徴を紹介した。

ソウル近郊の大真大学校から来ている権俊範君は屋台の定番料理「トッポッキ」や「ビビンバ」などを「鶴橋にもあるけど、韓国の方がすごく辛い」と話し、「日本では電車の中が静かなのに驚いた」と、日常生活の違いを述べた。また、香港出身の女子学生5人は、映像で香港での大学生活を印象づけた。この後、参加学生は国別のテーブルに分かれ、英語や日本語で留学生と交流した＝写真。

8日の第4回では、本学教育GPプロジェクト推進室の藤田由美子さんが「アジアで働く」をテーマに話した。藤田さんは08年まで欧州系航空会社のシンガポールオフィスに勤務、自らの経験から、成長を続けるアジアの重要性を強調した。

最後の第5回は「アジアの魅力・アジア留学の意義」をテーマに15日に開催。

フィリピン、香港、マレーシア、インドネシアに留学、インターンシップも経験した岸本茜さんがイスラム圏での生活やミャンマー出身の留学生との交流といった体験を紹介した。

## 春派遣留学生代表のメッセージ(要旨)



国際言語学部2年  
長谷川 華さん  
交換留学  
豪・スウィンバーン工科大学

### 出身地・福井の活性化に役立てたい

私の夢は、出身地・福井の活性化。留学とリンクしないように思われるかもしれませんが、オーストラリアで学びたい分野は「観光学」です。

高校2年の夏、語学研修でブリスベンに3週間滞在しました。地元住民と交流し、アボリジニーの方から話を聞いて、魅力を発見しました。それは、外国人観光客、留学生とのコミュニケーションや、街全体で観光を推進する姿勢です。そして、その視点から福井を見て、「こんなに素晴らしいものや景色があったのか!」と気づきました。

外国人観光客を呼び込める観光地を作り、自分自身も語学力を駆使して外国人観光客にスムーズに対応できる人材になりたいと思っています。留学先では、Aboriginal Australiaという科目を学んで、また、観光地を訪れて、地域に根付いた伝統的な文化を世界に通用させるノウハウを吸収していきます。

私たちが旅立つ2月は、日本では真冬ですが、オーストラリアは真夏。暑さに負けないで、思い切りのよい留学生活のスタートを切りたいと思います。



外国語学部英米語学科2年  
山田 恵莉さん  
英語/レギュラー留学  
米・コロラド大学ボルダー校

### ファッション雑誌編集の夢に向かって

留学先で、前期は英語集中講座でより高い語学力を身につけ、後期は将来の夢であるファッション雑誌の編集という仕事に就くために、専門知識を吸収してきたいと考えています。

将来の進路について、留学が現実のものになると、アパレルと雑誌の編集というキーワードが頭に浮かびました。ファッション雑誌は小さいころから身近な存在。留学生の友達やネイティブの先生と交流するうち、日本は特別、ファッションに強い関心を持つ国で、文化の一部と感じました。この文化を支えながら、好きな仕事に就ければと考えてファッション雑誌編集の仕事に思い至ったのです。アメリカでは多くの大学にアパレルのクラスがあります。とても魅力的で、今から楽しみです。

留学を通して、人間としても成長したいと考えています。時間は限られています。「TIME IS MONEY」という言葉は、留学中の時間がどれだけ大切かよく表しています。時間を有効に使って、しっかり学び、それぞれの留学を大いに楽しみましょう。



## 片岡、町田両氏に博士号授与

大学院博士課程後期の片岡宏仁さんと町田哲司・外国語学部教授の学位論文が審査に合格し、3月20日の学位記授与式で谷本義高学長から博士号が伝達された。本学授与の博士号取得者は53人となった。片岡さんの横顔と論文のポイント、抱負を紹介する。  
(町田教授の紹介は14面「旬な人」)

### 片岡 宏仁さん(英語学)

**【経歴】**2000年明治大学文学部文科学科卒業。03年獨協大学大学院外国語学専攻前期修了、04年本学大学院博士課程後期(英語学専攻)入学。

**【論題】**Grammatical Semantics of Modality, Counterfactuality, and Tence: A Study of Convert and Implicit Meanings

学部では英米文学を専攻し、大学院で英語の意味論・語用論を研究。修士論文執筆中、第一人者である本学外国語学部英米語学科長の澤田治美教授の論文に感銘を受けた。博士課程後期は澤田教授の下で修業。「見かけ上は文法に反する時制などの使い方も、母語話者は意識せず、場面ごとに使いわけている」と、博士論文のポイントをかみくだいて説明する。学位を弾みに、意味論・語用論の研究の発展はもとより、「海外のジャーナルへの寄稿や、翻訳出版にも取り組みたい」と話している。



留学生別科(Assian Studies Program)の2010年春季の授業が2月1日から始まったII写真。春季に受け入れたのは38か国206大学の457人。新規受講生は268人で、189人が秋学期から引き続き受講している。09〜10年の留学生受け入れ数は39か国247大学の708人となり、初めて700人を突破して過去最高となった。山本甫・別科長(国際交流部長)はこれについて、「学生を送りたいというリクエストが強くなったからだろう。円高で日本への留学が大変なときだけにありがたいこと。本学が選ばれているのは別科で質の高いプログラムを提供しているから。これまで他大学に派遣していたのを本学に変更してきたところもある。今後については不確定な面もあるが、本学が欧米の大学へ多くの交換留学生を派遣できる仕組みは維持していきたい」と話している。

# 留学生別科 年間受入数 700人を突破

## 本学のプログラムを高く評価

700人を突破して過去最高となった。山本甫・別科長(国際交流部長)はこれについて、「学生を送りたいというリクエストが強くなったからだろう。円高で日本への留学が大変なときだけにありがたいこと。本学が選ばれているのは別科で質の高いプログラムを提供しているから。これまで他大学に派遣していたのを本学に変更してきたところもある。今後については不確定な面もあるが、本学が欧米の大学へ多くの交換留学生を派遣できる仕組みは維持していきたい」と話している。

420人でトップ。次いでオーストラリア12大学47人、マイギリス6大学25人、カナダ11大学24人、オースウェーデン5大学22人、韓国6大学15人、ドイツ5大学15人、フィンランド4大学14人、フランス6大学12人など。

## 本学の韓国視察団10人 釜山外大、大真大を訪問 「ASEAN+3」コンソーシアム協議 ネット利用の授業モデル見学も

本学の「教育GP韓国大学視察団」(谷本榮子理事長ら10人)が2月15、16の両日、釜山外国語大学とソウル近郊にある大真大学を訪問した。いずれも本学の単位互換提携校で、文科省から教育GPに選定され、本学が中心になって推進している「ASEAN+3」大学



新キャンパスの説明を聞く一行(釜山外大で)

コンソーシアム」構想などについて協議し、2大学とも、本学との交流を深める中で積極的に関わりたいとの考えを明らかにした。この構想は日中韓3国とASEAN10か国の大学がスクラムを組み、本学を通して相互の交流を活性化させることで、次世代のアジアを担う国際人を育成しようという、わが国初の国際国際コンソーシアム構想。2008年度に、文科省から「教育GP(質の高い大学教育推進プログラム)」に選ばれた。釜山外大は、市中心部の北側にある南山洞に新キャンパスを建設し、2013年春に移転する予定。新キャンパスは本学の中宮キャンパスがモデルになっており、建設本部長の鄭慶萬教授が模型やCGを使い、全体像やエコに配慮した工夫などを説明した。鄭海麟・釜山外大理事長は「釜山でも少子化が進んでいる。施設だけでなく、

## 王路江・北京語言大理事長に 名誉博士号 4月2日授与式



本学は、本学との交流に尽力し、関西外大孔子学院設立に多大の貢献をした王路江・北京語言大理事長に、4月2日、谷本記念講堂で国際言語学部の入学式に引き続いて名誉博士号授与式を行う。

王理事長は、1950年吉林省長春市生まれ。清華大学電子工学部卒業。中国教育部で高等教育局副局長などを務めたあと、1999年、北京語言大理事長に就任した。同大学を国際的な大学に育て上げ、関西外大孔子学院設立に当たっては本学と協力、同学院副理事長に就任した。

人目。4月2日、谷本記念講堂で国際言語学部の入学式に引き続いて名誉博士号授与式を行う。王理事長は、1950年吉林省長春市生まれ。清華大学電子工学部卒業。中国教育部で高等教育局副局長などを務めたあと、1999年、北京語言大理事長に就任した。同大学を国際的な大学に育て上げ、関西外大孔子学院設立に当たっては本学と協力、同学院副理事長に就任した。

## PICK UP!!

教育内容や国際交流など、質的な向上も欠かせない。「兄弟校」として、関西外大との一層の連携強化を図っていききたい」と述べた。大真大学では、李千洙総長が谷本榮子・本学理事長の褒章受章を祝福。ついで「大真大学は発展途上にある。『ASEAN+3』大学コンソーシアム構想についても、ぜひ仲間入りし、関西外大との連携、交流をさらに深めていきたい」と強調した。

視察団は14日に大阪を立ち、主としてインターネットなどを使った韓国2大学の授業モデルや設備、施設を見学した。どこに扮した女性ばかりの団員が、感情豊かに面白おかしく演じた。図書館協会には、全国520の大学が加盟し、阪神地区協議会は69校。総会には44の大学から52人が出席、次期理事に桃山学院大、運営委員会のメンバーに本学、大手前大、大阪成蹊大、大阪女学院大、関西国際大の5大学を選んできた。

### ■ 枚方で森繁さんを偲ぶ会 本学・奥田講師が映像解説

昨年11月、96歳で亡くなった枚方市名誉市民、森繁久彌さんの市葬「森繁久彌さんを偲(しの)ぶ会」が2月6日、枚方市市民会館で開かれた。遺族や竹内脩市長ら市民1200人が参加し、本学からは谷本榮子理事長、森一貫国際言語学部長が出席した。

### ■ 未決定の学生会役員決まる

森繁さんの芸能生活40周年を記念した76年公開の「喜劇 百点満点」製作東宝映画)を上映し、映画評論家の奥田均・短期大学非常勤講師が映像プロデューサーと解説を務めた。森繁さんは幼少期を市内で過ごし、1984年名誉市民となった。大衆芸能部門で初の文化勲章。国民栄誉賞受賞。

本学外国語学部英米語学科を2006年3月に卒業した岡本英樹さん(奈良市)が全国でただ1人、最高の1級に合格した。岡本さん以外に本学から大学院生3人、学生25人が受験し、2級に6人、3級に11人、4級に1人が合格した。

### ■ 中宮学舎

長 報 梅田剛志(スペイン語会話) 会 長 坂田一樹(セパタクロー同好会) 副会長 赤井雄樹(ソフトテニス) (学生会)

岡本さんは卒業後、瀋陽市の東北大学と成都市の四川大學に半年ずつ留学。2年間は日本の金属メーカーに就職し、中国との商談に同席する経験も積んだ。プロの通訳を目指して退社、学生時代のゼミ担当の戸毛敏美教授に勧められ1級受験を決意。

### ■ 図書館協議会総会で朗読劇公演

私立大学図書館協会の2009年度第2回阪神地区協議会定期総会が2月25日、理事校の本学で開かれた。総会に先立ち、朗読劇団「朗読GEN」(奈良市、秋山太加代表)の公演があり、金子みすゞの詩の朗読に続いて、朗読劇「女の決闘」が演じられた。原作はマイカーを持つことなど夢の時代の昭和30年代後半、自動車をめぐる主婦たちの争いをコミカルに描いた遠藤周作の短編小説。

2次試験で通訳や商談のようなテストが課せられる。岡本さんは、政治・経済関係の中国語ニュースをネットなどで入手、録音を聞き、その場で通訳するなどの準備をした。

秋山さんがシナリオを書き、主婦など、プロの通訳・翻訳家の道を歩む。

1級受験者は、岡本さんと中国人の2人で、岡本さんだけが合格した。岡本さんは「2次試験では、実際の商談の場にいるような臨場感があった。楽しかった」と話している。今後は中国でのイベントで通訳として働くなど、プロの通訳・翻訳家の道を歩む。

Vol.15

研究室から

国際言語学部

吉田

泰謙 准教授

主語を中心に  
中国語の文法を追究



正しい発音をマスター  
することが大事

中国語を学ぶ魅力は、どの辺にあるのでしょうか。

吉田 漢字を使用していますし、複雑な語形変化がないので、英語よりも取っつきやすい面があると思います。中国語は「発音よければ半ばよし」と言われます。難しいと思うかも知れませんが、アルファベットで表す発音表記法「ピンイン」をマスターすれば、後は比較的スムーズに力がつくと思います。若い人たちに言いたいのは、「中国は勢いのある国。だから、中国語を身につけておけば、将来は必ず多くのチャンスに恵まれる」ということです。

吉田 高校2年の冬休みに北京へ1週間、修学旅行に行きました。街全体が暗く沈んだ雰囲気でした。でも、地元の高校生たちはとても明るく、笑顔が印象的でした。街の様子と笑顔の落差が大きく、「いったい、これは何なのだろう」と思ったのです。日本と中国。同じアジアなのに大きなギャップがあることに気付きました。

それで、中国語を勉強して理解を深めたいと思ったのが、そもそものきっかけです。

数学や物理が好きで、高校では理科系のクラスだったのですが、大学では中国語を専攻しました。卒業後、もっと究めたかったので、北京語言学院(現北京語言大学)に学部編入生として3年間留学しました。卒業時に優秀卒業生として表彰され、試験免除で大学院に進学できることになりましたので。

多くを学んだ13年の留学

留学期間が通算13年。これまでの人生で、3分の1を中国で過ごした計算です。

吉田 初めは荷台を引くロバや馬が北京の街中を走っていて、道路はここだけという環境でした。それが、みるみるうちに発展して……。道路はきれいになるし、北京五輪や上海万博を開くのですから。北京は自転車の街だったのに、今は自動車ばかり。自転車は少数派になりました。

主語とは何か?

大学院の3年間で修士号を得て帰国と想っていたのですが、中国語の文法という学問分野に目覚め、博士課程は北京大学に挑戦。2年間かけて準備し、2002年7月、2回目の試験で合格。これで研究者の道を進むしかなくなりました。5年後、博士論文が審査に合格し、留学にピリオドを打ちました。

吉田 まず感じたのは、向こうの学生の熱心さです。人口が多いからか、競争の激しさが伝わってきました。中国各地を旅して、国土の広さを実感しました。いまは鉄道が敷かれたチベットのラサレは、バスで2泊3日の旅でした。新疆・ウイグル自治区からの帰りは鉄道でしたが、3日ばかり。列車が止まる度に、民族衣装を着込んだ地元住民が乗り込んできます。日本では伝統衣装としてお祭りやイベントでしか着ないような服装を中国では生活の中で着ている。印象深いシーンでした。

研究内容について教えてください。

吉田 博士論文の論題もそうなのですが、研究テーマは「述詞性主語文」。述詞というのは動詞・形容詞のことです。中国語は英語同様、基本的に「SVO」の構文と言われます。その「S」にあたるところに述詞性、つまり動詞的な特徴をもつ語句が置かれるのが、述詞性主語文です。ところが、中国語にはそもそも語形変化がないので、場合によっては、それが動詞なのか、名詞もしくは名詞化したものなのか、その部分だけを見ても判断できません。中国語の文法では、「主語とは何か」とも誰かが認めるはつきりとした定義がないのです。日本語学でかつて論争のあった、日本語に主語があるのか、ないのかという点に似た論議が、中国語学でもあります。

日本語では文頭に来る「は」が、関心のありかを示すTOPIC表現となる場合があります。例えば、「象は鼻が長い」の「象は」。これは「象について

教育者として、研究者として

教えるという点ではいかがですか。

吉田 母校の北陸大学で約1年半講師を務めた後、昨春から国際言語学部の1、2年次生を中心に中国語を教えました。今年度からゼミも担当します。

語学力のレベルがまちまちなので、楽しい授業にしたいけど、それだけではないですね。ドリルを増やすなど工夫もしています。また、授業で必ず質問の時間を取っています。5分程度ですが、たとえ幼稚な質問だと思っても、それはきっとほかの人の疑問点でもあるので恥づかしがらずに尋ねるように指導しています。最近では学生も積極的になってきました。

今後の研究の発展については、どのようにお考えですか。

吉田 博士論文が理論中心だったので、今後は中国語教育に生かせる文法論という分野を開拓したいですね。その研究成果が一般的な中国語テキストに使えるような、より実践的な研究を展開していきたいと考えています。

プロフィール

1994年北陸大学外国語学部中国語科(現未来創造学部)卒業。同年9月北京語言學院漢語學院2年次編入。2000年7月北京語言學院漢語學院2年次編入。2002年7月北京語言學院漢語學院2年次編入。2004年7月北京語言學院漢語學院2年次編入。2006年7月北京語言學院漢語學院2年次編入。2008年3月北陸大学大学院国際言語学専攻修士課程修了。2009年3月北陸大学大学院国際言語学専攻博士課程修了。2010年3月北陸大学大学院国際言語学専攻博士課程修了。2010年3月北陸大学大学院国際言語学専攻博士課程修了。2010年3月北陸大学大学院国際言語学専攻博士課程修了。

短大GP  
初の外部評価委開く

文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」に選定された短期大学の「ファーストステージ」で学びの進化をカタチに」に対する初めての外部評価委員会が3月3日、中宮学舎で開かれた。08年度に選ばれて以来の実践を短大側が説明。委員からは「全学をあげてきめ細かく取り組んでいる」と論評があった。写真。



からは大学やキャリアセンターなども含め約10人が加わった。はじめに谷本榮子理事長・短大学長が「この取り組みをもっと向上させ、活力あるものになりたい」と強調。岡澤潤次FD委員長・教職英語教育センター教授が実践の3本柱から初年次教育「K.G.C.ベリシックス」と全学生留学制度について詳しく解説した。

さらに廣本和司キャリアセンター所長・教授が情報・通信技術(ICT)を使った授業外の英語学習として、携帯電話でTOEIC形式の文法問題が学べる「モバイルアカデミー英文法」をすでに始めており、10年度は本学が独自に開発したシステムを使い、インターネット上で多読用書籍のテキストを利用できるようにすると明らかにした。

外部評価委員のうち早瀬光秋・三重大学教育学部教授と清水隆・大阪府教育センター教育企画部長が出席。本学

PICK UP!!

韓国交換留学生懇談

「ASEAN+3」大学コンソーシアムのプロジェクトとして韓国の交換提携大学から学生5人が初めて2月1日付で外国語学部英語学科3年に編入。同日には、中宮学舎で谷本榮子理事長、谷本義高学長と懇談した。



懇談会後に理事長と学長を囲む学生たち

ミン柱(シン・ミンジュ)以上、東西大と李宰連(イ・ジェヨン)釜山外大のみなさん。懇談会では、李知連さんは「プロジェクトの制度によりふたつの大学で学位を取ることができるのは一石二鳥。こんなチャンスを与えてもらい光栄です」と期待をこめた。このほか「日本の芸術をみっちり勉強したい」「ビジネス英語を身につけたい」と抱負を語った。



# 短大生が異文化体験にチャレンジ

## 「学短連携」のイベント続々と

本学短期大学部から外国語学部スペイン語学科と国際言語学部へ3年次編入学してもらうためのイベントが相次いで行われた。一つは、7月8日に開かれたスペイン語コースミーティング「フラスメンコを踊ろう！」Ⅱ写真上、もう一つは6月26日のイベント授業「フラスメンコ作り」に挑戦Ⅱ同下。

### ステップ、手振りを熱心に「フラスメンコを踊ろう！」

短期大学部にスペイン文化に親しんでもらい、3年次編入学に繋げようと始まった「短大部スペイン語コースミーティング」。7月8日の第3回目は「フラスメンコを踊ろう！」午後6時半



### 「メチャおいしい」「フランス菓子づくり」

短期大学のフランス語の授業で、ケイカさんは、東京のミシュラン3つ星レストランでフランス菓子作りを学んだあと、結婚式場やケーキ店で修業を積み、一昨年から、京都でお菓子教室を主宰するなどパティシエ歴7年。授業のタイトルは「フランス菓子とのおふれあい」。ブレイク・フル・セックを作る。計2回で男子学生1人を含む45人が参加した。ケイカさんからレシピの説明を受けながら、手を真っ白にして焼き上げた。



今年度からスタートしたイベント授業が6月26日、第4国際交流セミナーハウスで始まった。第1、2回目は、外国語学部ディマルティノ教授夫人のケイカさんを講師に招き、短大生がフラスメンコ作り挑戦した。

### 「薬物乱用ゼツタイ、ダメ」

学生がからむ薬物事件が相次いでいるため、短期大学部は6月1日、中宮キャンパスの谷本記念講堂で、厚生労働省近畿厚生局麻薬取締部の森脇壽正部長を講師に招き、薬物乱用に関する対策講義を開いた。短大部の新入生約1000人が出席し、講義終了後レポートを提出した。

### 麻薬取締官が本学で講演

語学科の男子学生が大麻取締法違反で逮捕されており、これを重視した短大部がK.G.C. ベーシックスキルの授業として開いた。森脇部長は「薬物乱用はダメ、ゼツタイ」のタイトルで、スライド画像を使いながら約60分間にわたって講義した。大学生の薬物にからむ検挙数が、2008年で覚せい剤18人、大麻89人担当してきた。

できあがるまでに、お菓子の名前と由来に關係した9つのフランス語の問題にチャレンジ、最後に、コーヒーや紅茶を用意しみんなで試食した。学生らは口々に「メチャ、おいしい。これなら簡単や」と感激していた。イベント授業は昨年度の学短連携検討会議で、楽しみながらフランス語を学び、併せて短大部から国際言語学部へ編入生を呼び込もうと企画した。今後も学期に1回、実施する。

### スペイン画家アマツ氏が講演

国際文化研究所の例会が6月11日、中宮キャンパスで開かれ、スペインの画家、フレデリック・アマツ氏が「わが人生アバンギャルド」と題して講演した。アマツ氏は1952年にバルセロナで生まれ、舞台美術、映像作家としても活躍している。



アマツ氏(右)を田尻教授が紹介。この日は、スペインを代表する劇作家・詩人、ガルシア・ロルカ生誕100周年を記念して作られた短編映画「月への旅」(1998年)など、彼の映像作品を上演しながら、スペインのアバンギャルド芸術について語っていただいた。

■ザンビア大使表敬訪問  
アフリカ・ザンビア共和国のビクタ・レワニカ駐日大使Ⅱ写真  
⑥Ⅱ一行が6月22日、本学の谷本榮子理事長を表敬訪問。同国の大学と本学との交流を求めた。  
谷本理事長が本学を紹介した後、レワニカ大使があいさつ。「ザンビアには現在、大学は3つあり、新たにひとつが建設中。関西外大との間で教員や学生の交流を図りたい」と提案した。これに対して、谷本理事長は基本的に賛同し、同国の大学から具体的な申し出を待つて検討するとした。  
ザンビアはアフリカ南部の内陸国。世界



■サランカ大学日西センター長講演  
6月4日、サランカ大学日西文化センター長、オビディ・カルボネイ教授を招き、講演会「奇異なるものの慣用化」が開かれた。カルボネイ教授は翻訳通訳学部の教授でもあり、中宮キャンパス・多目的ルームを会場に、約50人の学生や大学院生の前で1時間半、興味深い翻訳論を展開した。  
かつて翻訳といえば、原文を忠実にすべて訳すことが求められた。しかし、東洋と西洋という全く価値観が違う異文化を翻訳する際、自文化のコンテキストに訳語を適合させるわけだが、適合が不可の場合、「削除」と「追加」が必要となる。  
また、自文化にないものを同じような意味のコトバに置き換えれば、誤解が生じる可能性がある。とりあえずイタリック体で原語表記をし、その言葉が自文化に定着するのを待つのも一つの手段。  
◇ ◇ ◇  
自文化にないものをイタリック体表記にするのか、注をつけるか、説明的描写にするか、参加者を交えて議論となったが、結論をみないまま、講演会は終了した。  
(外国語学部教授・田尻陽一)

公開講座として開かれる大学院「ラテンアメリカ特別研究」リレー講義の日程が決まった。受講希望の学生はKGENESISを使って講義日前日の午後5時までに申し込む。1回だけの受講も可能。今年度は、熱心に受講した市民に修了証書を授与する。  
博士課程前期・特定履修コース「ラテンアメリカビジネスクommunicエーション」(言語文化専攻)の授業で、9月27日、来年1月24日の月曜

秋学期のラテンアメリカリレー講義  
芸術分野も充実し、9/27から一大学院  
日に14回開講。企業や国際機関の専門家、外交官らが中南米のビジネスや魅力を紹介する。  
第1回の9月27日は岡本太郎記念館館長の平野暁臣さんが特別講演。また、アルゼンチンが今年独立200周年を迎えるため、駐日大使が講演するほか、11月18日(木)にアルゼンチン・タンゴ・コンサートを開く。今年度は、音楽や美術など芸術分野での中南米との交流をじっくり学べるラインアップとなっている。

公開講座として開かれる大学院「ラテンアメリカ特別研究」リレー講義の日程が決まった。受講希望の学生はKGENESISを使って講義日前日の午後5時までに申し込む。1回だけの受講も可能。今年度は、熱心に受講した市民に修了証書を授与する。  
博士課程前期・特定履修コース「ラテンアメリカビジネスクommunicエーション」(言語文化専攻)の授業で、9月27日、来年1月24日の月曜

# 秋のオープンキャンパスに1800人 「留学生と話そう!」 コーナーにぎわう

## 高校生ら外大らしさ満喫

秋のオープンキャンパスが9月19日、中宮学舎を中心に開かれ、残暑厳しいなか高校生や保護者ら約1800

人でにぎわった。留学生別科の秋学期の授業が始まった直後だけに、国際交流センターのブースでは、外国人留



生らとの交流イベントも開かれ、参加者らは外大らしい雰囲気を楽しんでいた。

午後11時から、谷本記念講堂で開かれたオープンキャンパスでは、谷本義高大学学長が来春仮設予定の「英語キャリア学部」(認可申請中)について、「新学部はみなさんの夢をかなえる学部です」とアピールした。

午後からは各会場に分かれ、外国人教員らの模擬授業やキャリア支援留学制度、入試制度などの説明会、個別相談が開かれた。「留学生と話そう!」という会場がある国際交流センターには、アメリカ、オーストラリア、フランスなど世界12か国37人の留学生らが、本学を志望する高校生らの相談に、熱

心で傾けていた。大阪から来た府立高3年の女生徒は「正門に入ったとたん、美しい庭と建物が目に入り、テレビで見えるような素敵なキャンパスに感動しました。設備もいいし留学制度も整っているようなので、是非、入学したいと思いました。アメリカからの留学生と話しましたが、日本語も上手で気軽に話ができるのでとても楽しかった」と喜んでいました。国際言語学部のある穂谷キャンパスには無料バスが運行され、約580人の高校生らが見学を訪れた。

一方、夏休み中の7月24、25日に開かれた中宮、穂谷両学舎合同のオープンキャンパスには、2日間で計約4730人が詰めかけた。また8月28日に開催の今

年2回目となる穂谷学舎単独のオープンキャンパスには約460人(前年度約450人)が参加した。これまでのオープンキャンパスの参加者は、中宮、穂谷両学舎あわせて約9980人(同約9270人)。今年最後のオープンキャンパスは12月18日(土)午前11時から、来年の一般入試直前対策講座開催を兼ねて中宮学舎単独で開かれる。

## 穂谷短大卒業20周年 同窓会

### 157人が思い出語り合う

関西外国語短期大学穂谷学舎を1990年に卒業したOB、OGが卒業後20年を記念し、「卒業20周年記念同窓会」を企画。7月18日、穂谷キャンパスに集合し、熱く語り合った。

当日、卒業生らはキャンパス内を散策、木々の成長に20年の歳月を感じ、学生時代と変わらない教室や懐かしい場所を記念撮影していた。同窓生の「まさだおかだ」の増田英彦さんも特別参加し、3階食堂でパーティーを開いた。写真。会に先立ち、死去された谷本貞人総長に黙祷を捧げ冥福を祈った。その後、食事を摂りながら歓談、参加者のうち26人が穂谷セミナーハウスに合宿して語り明かした。

在学当時はパソコン・携帯電話はもろんメールなど存在しない時代。唯一の手がかりである「卒業生名簿」を頼りに、人伝えで参加を呼びかけ、気の遠くなるような作業を経て、916人中157人の卒業生が再び穂谷に集った。

「ASEAN+3」大学コンソーシアム。「+3」とは、日本、中国ともう1か国はどこでしょう。

## 中学生サマーセミナー 「英語漬け」特訓道場

### 22人が犯人捜しに挑戦

中学生サマーセミナー「英語漬け」特訓道場——G I A 捜査官「犯人を捜せ」が8月5—6日に、1泊2日の日程で中宮キャンパスなどで行われた。大阪府内から応募した1—3年生22人が参加。「いつも英語で話す」自分のミスから学び、行動する」などを全員で誓い合った。

教員志望の18人の本学の学生が黄色のアヒルと黒いアヒルを使い、英語を取り巻く世界の状況がわかるゲームを考案。中学生たちはC I A をもじった



G (Gaidai) I A の捜査官となって、学生が扮した「スパイ」を捜し出すために6つのグループに分かれ、任務に取り組んだ。初日はイギリスや南アフリカ、カナダ、オーストラリアなど9つの国にわけた教室でのゲームを通じて、スパイを特定するヒントを探り当て、最終日に各グループがそれぞれの推理を発表し、なぜ解きを楽しんだ。写真。初日夕からは第一国際交流セミナーハウスに移動し、英語による調理実習や歌やおどりなども楽しみ、宿泊した。同セミナーは大学コンソーシアム大阪が主催し、大阪教育大、大阪市大など府内の34の大学や専門学校などが開催。本学の企画には192人の応募があった。



**外大通信250号 記念クイズ①**

Q 文部科学省の教育G P に選定された本学の「ASEAN+3」大学コンソーシアム。「+3」とは、日本、中国ともう1か国はどこでしょう。

1. 北朝鮮  
2. 韓国  
3. 東ティモール

## PICK'UP!!

### 「アセアン+3」大学コンソーシアム 実務者会議開催

教育G P 「ASEAN+3」大学コンソーシアムの参加5大学の実務者会議が8月24、25両日、中宮学舎で開催され、中国・天津外国語大学、韓国・釜山山外語大学、タイ・バンコク大学、ベトナム国立社会・人文科学大学ホーチミン校の各2人と本学から小島泰典アジア太平洋交流センター長、豊田裕之准教授らが出席した。会議に先立ち谷本榮子理事長が「英語が堪能でアジアの次世代を担うリーダーが育つてくれることを願っている」とあいさつ。このあと、各大学が取り組みの現状を報告、2重学位選考の仕組みを参加大学の間で共有することなどが話し合われた。

### ■新学部のサイト一新

新学部「英語キャリア学部」(仮称、認可申請中)を紹介する本学ホームページ内のサイトが一新された。主な内容は、新学部の全体像を10ページのデジタルパンフレットで説明したこと、谷本義高学長からのメッセージと担当教員(Language Development = Lisa Theisen 准教授、英語プロフェッショナル = 松宮新吾 教授、国際教養 = 豊田裕之 准教授、グローバル・ビジネス = 横太一 准教授)からのメッセージを動画で掲載したこと、Q&Aの項目を充実させたことなど。デジタルパンフレットは、[http://www.kansai-gaidai.ac.jp/special/new\\_academics/src/career\\_pamphlet.swf](http://www.kansai-gaidai.ac.jp/special/new_academics/src/career_pamphlet.swf)

# ✉ Hello! 海外からの@メール

エクアドル・エスピリッツサント発

## 異文化を肌で感じる多彩なプログラム

外国語学部スペイン語学科 高野 翔君(交換留学・エスピリッツサント大学)

エクアドルのエスピリッツサント大学(UYES)でスペイン語と観光学を中心に勉強しています。エクアドルと聞いて何を思い浮かべますか。南米、赤道、ガラパゴス諸島などではないでしょうか。

エクアドルは小さな国ですが、海があり、山があり、アマゾンがあり、ガラパゴスもあり、またそれぞれ気候も違い、自然豊かなとても素晴らしい国です。もちろん、文化の違いが大きいので、多くの衝撃を受けたりすることもあるでしょう。でもエクアドルの人たちはとても温かく、大学の人はもちろん、現地の友達やホストファミリーなど多くの人たちがいつも支えてくれるので、とても心強く感じます。

またこの大学には学生のために、ダンス、料理、ボランティアや旅行などのおもしろいプログラムもあり、エクアドルの文化を肌で感じることができます。この大学に来ることができて、本当によかったと思っています。すべては伝えきれませんが、興味のある人はすぐ国際交流部に足を運んでください。



留学生仲間と(前列左端が高野君)

ドイツ・デッケンドルフ発

## 2年目のドイツ。インターンシップにも挑戦したい

国際言語学部国際言語コミュニケーション学科 松川 慶子さん  
(ドイツ語圏2か年留学・応用科学大学デッケンドルフ)



ドイツで知り合った仲間たちと(右から3人目が松川さん)

文法を一通り学んだだけの私はコミュニケーション面で苦労しました。しかし上手にしゃべれなくても、友だちと楽しくおしゃべりしたり、みんなでご飯を作ったり、プールに行ったりと、楽しく充実した日々を過ごせました。そうしているうちにドイツ語が上達しているのを感じました。

ドイツへの2か年留学で1年目はバンベルク、そして今は2年目のデッケンドルフに住んでいます。

1年目はドイツ語の習熟が中心で、履修する授業も留学生向けのドイツ語コースが中心でしたが、並行して自分が学びたいマーケティングやマネジメントの授業もいくつか英語で履修していました。初めは他の留学生たちに比べドイツ語を学んできた年月も少なく、

2年目のデッケンドルフではバンベルクの総合大学と違い、ビジネス専門の大学で学びます。一学期目は英語で開講されているInternational Managementの科目を中心に履修し、また、ビジネスドイツ語、ビジネス英語、そしてフランス語も履修してみようと考えています。2学期目は余裕があればインターンシップにも挑戦してみたいです。

## 米国でFDプログラムの研修

——本学から教員10人が参加

教育GP『ASEAN+3』大学コンソーシアム』に関連した本学教員向けのFDプログラムが9月7日から14日まで米国の提携校の一つ、ウィスコンシン大学オクレア校であり、10人が参加した。



日本人教員が学部の授業を英語で行うための研修で、昨年度に続き2回目。1週間余りの短期の研修だったが、ワークショップあり、授業見学ありの刺激に富んだ体験だった。

ワークショップのテーマは、ラオスからオクレアに移住し、定住を始めたモン民族の歴史と現状をアメリカの移民史と関連づけたものや国際交流の意義・目的など。多様化する環境下での教育方法や教授法などについて、現地の教員と意見交換した。

授業見学は20～30人の少人数クラスが対象で、学生一人ひとりのニーズをどう把握し、授業を進めているかを学んだ。また、200人以上の規模の授業も視察。学生の理解度などを即座に計測できる「クリッカー」(携帯電話に似た機器)を使って、学生と教員が対話形式で行う授業などを見て回った。公立高校の授業も見学したが、学ぶ意識が比較的低い生徒を指導する教員の健闘ぶりが印象的だった。

今年は、前回参加した教員の提案で専門が同じ教員との交流を強化する一方、現地の学生に対する授業を行う機会も得られ、大きな成果を挙げた。今回の研修は教育について深く考察する刺激的な機会だった。これを今後の教育研究活動に生かしていかなければ、と痛感している。

(外国語学部准教授・豊田裕之)

## 「アジア留学講座」開催中

10月中の金曜日、CIEで

留学先選択の参考材料を集中して収集できる「アジア留学講座」が10月1日から、中宮キャンパスの国際交流センターで開かれている。

全4回の予定で、第2回以降の日程、講師、テーマは次の通り。

- ▽第2回 10月8日(金)  
九州大学大学院 田中光晴助教  
「国際化する韓国—韓国留学のススメ」
- ▽第3回 10月15日(金)

ノキア・ジャパン 福丸雄一郎氏

「タイ留学の魅力と可能性」

▽第4回 10月22日(金)

国際言語学部 相原里美講師

「中国留学があなたの就活を切り開く」

いずれも国際交流センター 3208教室で午後4時40分～6時10分。受講希望者は、中宮・国際交流部、穂谷・学務課でのサインアップか、K-Genesysを通しての登録が必要。

## Speech by Incoming Student Representative

### My Motivations for Coming to Japan

Will Valliere (Lehigh University, USA)



I hope you will forgive me if I seem a bit dazed. Around a week ago I was sitting quietly at home in suburban New England; and now, today, I am giving a speech to an auditorium of more than 400 people...and I am in Japan. It's all a little disconcerting. I'm sure I'm not the only person here who was living a radically different life a just a few days ago.

I was asked to speak today about why I am in Japan and what it is I hope to learn. I suppose my motivations for coming to Japan can be divided in three: the academic, the professional, and the personal.

When we talk about academics, there is frequently a set goal in mind—"I want to be an expert in this field or on that topic." Students are expected to find a path and set off on it. I've never really thought of study that way. To me, academics should be like a buffet—limitless options, and no pressure to sample only one dish. I've met many people my age who are seemingly not interested in any subject. My problem has always been the opposite—I want to know it all.

I do not yet know what career I would like. Part of the problem lies with my distaste for the thought of only one career, only one life's work. I do know that I want to leave the planet better for my having lived on it. I will not pretend ambition plays no part in my desires—I do aspire to make my mark on the world. But I also want it said of me that I did my part to solve the problems of the day, without yearning for a simpler time or another generation's hurdles. I am determined to face the world as it is, not as I would have it.

On a personal level, I want simply to better myself. I want to know myself, to understand my desires and beliefs. I have also concluded that I want to pack as many experiences into my lifetime as possible. There is much to see, much to do, and much to be.

We will have the opportunity to explore a part of our world we may never see again. Moreover, we will have the opportunity to explore ourselves. We will learn how people in the East view the planet, the problems it faces, and their possible solutions.

With these experiences we will return home with a better understanding about the political landscape on the global level, and we will be better prepared to handle classes and careers that deal with that landscape. The days when people could afford to be ignorant of the world at large are gone. What the planet requires now is global citizens, and we will be fuller global citizens upon the completion of this program.

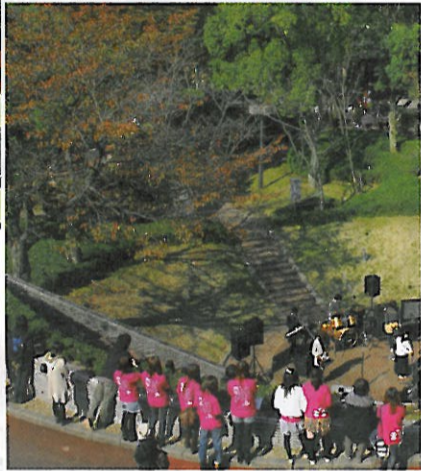
Perhaps the most important thing you and I will take away from this program, however, is not something that can be put on a résumé or in a course paper. Rather, it is a sort of knowledge that is deeply personal and far more meaningful. It is the knowledge of what Chuo City's takoyaki tastes like; what the breeze from the Seto-Inland sea feels like; what Osaka looks like at night. It is the understanding of what a Shinkansen train sounds like as it zips past or what the air of Mt. Fuji smells like.

This program is important because, when it is over, we will not simply have learned. We will have lived. I wish I could round this off with something inspiring—something to encourage you to get out and make the most of your time here. But looking around, I see that you don't really need inspiration. You were already inspired people. Your presence here is a testament to that.

You made it here, each in your own way, and that is impressive. You ought to feel proud, having journeyed so far from home. We have each of us come a long way—a good way.



華やかにパイレーツの演技(外大祭)



紅葉の中のコンサート(穂谷祭)

## 秋を満喫

### 外大祭・穂谷祭

外大祭が11月4日から3日間、穂谷祭が11月5、6の両日、中宮、穂谷の両キャンパスで開かれ、中宮は約1万5000人、穂谷が約3800人の学生や地域の人たちが詰め掛けた。(4、5面にグラフ)

外大祭は地元、報徳幼稚園児たちのかわいらしいマーチング隊の演奏で幕開け。続いてチアリーダー部「パイレーツ」の華やかな演技には、大勢の学生からエールが飛び交った。穂谷祭では、孔子学院がギョウザの屋台を初出店し、中国人留学生らが呼び込みをしていた。

両祭とも、定番の焼きそばやたこ焼きなどたくさんさんの屋台が軒を連ね、人気の店には学生たちの大勢の行列ができた。

5日と6日には、留学生らによる国際交流イベント「インターナショナルフェスティバル2010」が開かれ、恒例のファッションショーや留学生らのダンスが行われ盛り上がった。

「英語キャリア学部英語キャリア学科」の設置が決まった。本学へは、10月29日、文部科学省から設置認可の通知があった。本学は今年5月末に設置認可を申請し、文部科学大臣の諮問機関、大学設置・学校法人審議会で審査されていた。来年4月1日付で中宮キャンパスに設置する。入学定員は予定通り120人。(特集記事①、④面)

認可を受け、本学は公募制推薦入試と歩調を合わせる。

2011年度の入試では、公募制推薦で外国語学部・国際言語学部との併願、一般入試前期で外国語学部英米語学科との併願を認め、同後期で外国語学部英米語学科を第二志望とすることができるようにした。入試科目はすべて他学部と同一、公募制推薦入試と一般入試前期では名古屋、広島、福岡の3都市でも実施する。

英語キャリア学部は、「英語力を生かして職業に就き、生涯設計をしたい」という夢の実現をサポートし、英語プロフェッショナルを育成するのが設置の目的。英語と国際教養やグローバルビジネスなど社会科学科目を複合的に学ぶ本学独自のカリキュラムを編成し、原則として3年次に1年間、英語で専門科目を学ぶために留学する。卒業後はさまざまな分野への進出が期待される。

# 「英語キャリア学部」設置決定

## 定員120人、来春中宮でスタート

薦で外国語学部・国際言語学部との併願、一般入試前期で外国語学部英米語学科との併願を認め、同後期で外国語学部英米語学科を第二志望とすることができるようにした。入試科目はすべて他学部と同一、公募制推薦入試と一般入試前期では名古屋、広島、福岡の3都市でも実施する。

英語キャリア学部は、「英語力を生かして職業に就き、生涯設計をしたい」という夢の実現をサポートし、英語プロフェッショナルを育成するのが設置の目的。英語と国際教養やグローバルビジネスなど社会科学科目を複合的に学ぶ本学独自のカリキュラムを編成し、原則として3年次に1年間、英語で専門科目を学ぶために留学する。卒業後はさまざまな分野への進出が期待される。

### インドネシアの大学参加

ASEAN+3大学コンソーシアム

本学の提唱で始まった「ASEAN+3」大学コンソーシアムにインドネシアの大学が加わることになり、本学との間で包括協定が結ばれた。コンソーシアム参加国は日・中・韓・タイ・ベトナムに加え6か国になった。

協定を結んだのはジャワ島中部のサラティガ市にあるサティアワチャナ大学。谷本義高大学学長と同大学のジョーン・A・テイレイリー学長が手紙を交換して協定書にサインし、11月4日、小島泰典アジア太平洋交流センター長、豊田裕之准教授が同大学を訪問し提携書を受け取った。今後、同大学は本学や他の参加大学と具体的な交流プログラムを検討することになる。

サティアワチャナ大学は学生数約1万3000人のキリスト系総合大学で、英語学科はすべての科目を英語で開講している。本学との交流については、2重学位のプログラムと留学生別科での短期プログラムでの派遣を希望している。本学からは、インドネシア語の短期研修プログラムなどが考えられる。

### Campus Calendar

キャンパスカレンダー

Month	Date	Event
December	12月17日(金)	留学生別科授業終了
	12月18日(土)	第1回航空ガイダンス
	12月18日(土)	オープンキャンパス(中宮)
	12月25日(土)	授業終了
January	12月25日(土)	仕事納め
	1月6日(木)	授業開始
	1月15日(土)、16日(日)	大学入試センター試験
	1月24日(月)	秋学期授業終了
February	1月28日(金)~2月5日(土)	秋学期末試験
	2月7日(月)~9日(水)	一般入試前期日程(合格発表=15日)
	2月9日(水)	3年次編入学試験
	2月18日(金)、19日(土)	大学院入試(合格発表=22日)
	2月23日(水)	第2回航空ガイダンス

### 万代池

国際言語学部教授 小島 泰典

新たな学生交流を進めるため、8月末にオーストラリアに出張した。私にとっては10年ぶりのシドニーとキャンベラであったが、この10年間、オーストラリアは資源価格の高騰などもあり、順調に成長してきているように感じた。▲10年前は日本と比較してモノも食事も割安であったのに、物価上昇のため、ずいぶん高価となっており驚いた。長い低迷でデフレの続く日本は、経済力が相対的に低下しているのではないだろうか。

▲なお、関西空港からオーストラリアへは唯一の直行便を運航しているジェットスターを利用した。今話題のLCC(格安航空会社)である。徹底したコスト削減を図っている。たとえば、拠点であるゴールドコースト空港は平屋建て、ブリッジはなく、

手動のタラップを利用している。航空機を誘導する社員が乗客の搭乗チケットも持っている。利用者はほとんどが日本人で、往復とも機内は満席であった。新聞ではジェットスターが大きな利益をあげていると報道されており、日本の企業は大きなビジネス・チャンス逃しているのではないかと感じた。▲ところで、訪問したシドニー工科大学、オーストラリア国立大学(キャンベラ)とも、本学との交流に前向きで、ぜひ学生を送りたいとのことであった。本学の知名度は高く、両校とも日本語科主任の先生は関西外大のオーストラリアにおける交流活動について熟知しておられた。これまで長い間、国際交流部が積み重ねてきた実績の賜物と実感した次第である。

## 留学体験フェアに270人が参加 帰国生と留学生 計30人が準備・対策の秘伝を伝授

世界各地に長期留学した帰国生や外国人留学生が、さまざまな情報を留学希望の学生に伝える「留学体験談フェア」が11月15日午後5時から、中宮キャンパスの国際交流センターで開かれた。1階ラウンジには、約20のブースが設けられ、学位▽交換▽英語・レギュラー▽英語—の留学プログラム別に帰国生や別科留学生がマンツーマンで留学希望の学生と対応した。

このイベントは留学を希望する学生たちの悩みや不安を解消してもらおうと、外国語学部英米語学科4年の水村美穂さん(米国アルバーノ大学・交換留学)、鬼

武真実さん(米国ミネソタ大学モリス校・交換留学)ら帰国生が国際交流部の協力を得て企画。海外での生活や留学先での授業の内容などのほか、留学前の心構えをアドバイスした。

この日参加した帰国生は米国、カナダ、英国、ケニア、スウェーデンなど13か国への留学を経験した24人、留学生はアルゼンチン、スペイン、米国、タイ、豪州出身の6人。1、2年生を中心に約270人が会場を訪れ、各ブースを回って、留学先選びや事前の準備に役立つ情報について質問した。ブースの数は米国が最多。中でも米国

への交換留学には計50人の学生が集まった。6人と対応した鬼武さんは「質問が多かったのは、留学前のTOEFL対策。私の経験から、留学先に到着してすぐ必要となるリスニング力をつけること、次にスピーキングというように説明しました」という。また、英語・レギュラー留学のブースにも27人が訪れた。



270人が参加した留学体験フェア

## Halloween!! 円形ステージは500人の大歓声

全員  
集合



恒例のハロウィン仮装コンテストが10月29日、中宮キャンパスで開かれた。今年は外国人留学生と一般学生計約70組が参加=写真。この日は朝から、着ぐるみや顔のペインティングなど、変わった出で立ちの学生たちで、中宮キャンパスのムードが普段と一変。円形ステージで行われた仮装コンテストは立ち見も出るほどで、約500人の学生でにぎわった。

コンテストではホラー、ペア・グルー

プ、男装・女装、おもしろ部門の各カテゴリ別に、仮装した外大生・留学生が思い思いのパフォーマンスを繰り広げ、大歓声がわいた。事前の投票結果から、各カテゴリーのファイナリストを選出。特別審査員枠としてパフォーマンスで一番目立ったグループ1組を選び、計13組のファイナリストが最終パフォーマンスへ。この中から、各カテゴリーのNo.1と全カテゴリーのNo.1が選ばれた。

## アジア留学 講座開く 10月に4回シリーズで 英語力UP 韓国の台頭 親日の国・タイ 中国でキャリア形成

国際交流部と教育GPプロジェクト推進室が10月、中宮キャンパスの国際交流センターで4回シリーズの「アジア留学講座」を開いた。延べ約150人の学生が参加し、「英語で学ぶ」ことはもちろん、「+α」の多い「アジアへの留学」について情報を仕入れた。

第1回:2010年10月1日(金)

### アジア留学の魅力

担当:国際交流部アジア留学担当、星野晶成さん

①アジア諸国では、ビジネスや教育分野での英語使用頻度が極めて高く、「多様化された英語の理解能力が必要」と強調。②アジアの大学の教育レベルは日本の一流大学以上に高く、多くの大学で英語開講科目が豊富にある。③企業から見たアジア留学経験者への評価、また企業の海外進出の動向を通して、今後さらにアジアに精通する人材が求められる時代になっている。以上3点に絞って、アジア留学の魅力を説明した。

第2回:2010年10月8日(金)

### 国際化する韓国 韓国留学のススメ

担当:九州大学助教、田中光晴さん

「ガラパゴス化」の例を挙げ、普遍的な進化に取り残されないよう、海外に出て世界に目を向ける必要性を強調した。韓国の国際化政策や英語教育政策の成功例を説明し、これにより韓国の企業がグローバル社会で台頭してきていることを挙げて、韓国に留学する意義を述べた。また、語学以外の目的で、「何のために」留学するのか明確にすることが必要と説き、企業も留学経験者の語学力ではなく、「何のため」の部分の評価することを伝えた。

第3回:2010年10月15日(金)

### アジア留学の魅力と可能性

担当:ノキアジャパン・シニアセールス  
コンサルタント、福丸雄一郎さん

動画や写真を使ってタイの概要(政治、経済、文化、国民性)を紹介。親日の国であり、国民性も日本人と似ている。また、日系企業(主に製造業)がタイに工場を設けるなど、両国の関係が年々強まっている。教育の面でも、英語を基盤とした、international programがタイの大学に多く存在することから、英語圏としての留学が可能だ。こうした内容を、タイ留学のメリット・デメリットを挙げたうえで、その魅力を受講者に訴えた。

第4回:2010年10月22日(金)

### 中国留学が あなたの就活を切り開く

担当:国際言語学部講師、相原里美さん



①本学の留学プログラムには、中国留学・インターンシップの制度が設けられ、機会に恵まれている。②また、中国は日本にとって必要不可欠なビジネスパートナーとなっており、企業も中国に精通している人材を求めていることが、中国留学のメリットにつながっている。こうした点を、留学先での授業、寮、街の様子を動画で紹介し、わかりやすく説明。②では中国留学経験者のキャリア形成について、数人の学生・卒業生のケースを例示した。

(まとめ・星野晶成さん)

### セミナーハウス2

#### 大家族の長女になったよう

外国語学部英米語学科 2年  
立見 愛里さん

セミナーハウスでは、さまざまな文化的背景をもつ留学生が共同生活する中で、意見の食い違いやトラブルが起こることもしばしば。RAとして一つ一つ問題を解決しながら、留学生がより快適な生活を送れるようお手伝いしています。

留学生の不安や悩みをいかに解決するかも、RAの腕の見せどころ。ほんのちょっとした手助けも、留学生は覚えてくれています。ごく当たり前にしたこと、感謝の手紙を書いてくれた留学生もいました。楽しい留学生生活を、という気持ちが伝わった時、RAをしていて本当に良かったと感じます。

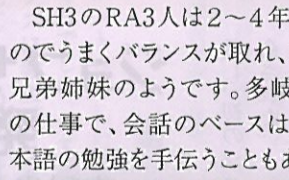
お父さん(管理人さん)の誕生日には、大半のレジデントがサプライズパーティに参加してくれました。まるで大家族の長女になったようでした。



「お父さん」の誕生日パーティ

### セミナーハウス3

#### BOWLING is not boring...??

外国語学部英米語学科 3年  
藤村 麻実さん

SH3のRA3人は2~4年と学年が違うのでうまくバランスが取れ、大変仲が良く兄弟姉妹のようです。多岐にわたるRAの仕事で、会話のベースは全て英語。日本語の勉強を手伝うこともあります。

週2日のオフは、各部屋で暮らす6~8人のユニットメイトと鍋パーティーをしたり、留学生のランニングチームといっしょに夜ジョギングをしたり。一つ屋根の下で生活すると、多くの国の言葉、文化、価値観を直接シェアでき、アートやビジネス、生物学などを専攻する学生からは新しい知識も得られます。

9月の「ボウリング大会」の参加者は約50人。お互いの距離がぐんと縮まりました。久しぶりのボウリングが楽しかったようで、BOWLING is not boring. というjokeも飛び出していました。



### セミナーハウス4

#### 映画鑑賞、日本料理...

国際言語学部 3年  
朝比奈 慎也君

SH4のRAとして約100人の留学生と共同生活をしています。SH4が一番大きい棟なので、アットホーム感をどうやって出そうか、常に考えています。そこで頻繁に行っているのが、できるだけ多くの留学生を誘って映画鑑賞をしたり、いっしょに日本料理を作ったりすること。毎回「次はこの映画を」「みんなで違う国の料理を作ろう」という反応を聞くたびに嬉しくなります。



また、国際的な視野を広げながら新たな発見に出るウェルカムパーティは笑顔がいっぱい合、留学生とともに成長するプロセスを肌で感じています。

時にはRAと留学生として、時には家族のように、オンとオフをしっかりと切り替えながらRAの任務を楽しみながら遂行しています。一日一日を大切に、常に高い目標に向かって全力で頑張ります。



# 「学生の相互交流を活性化したい」

## ベトナム・USSHホーチミン校 二重学位協定や共同研究について協議



本学が提唱した「ASEAN+3」大学コンソーシアムに加盟する5大学の一つ、ベトナム国立社会・人文科学大学(USSH)ホーチミン校のダウンタウンキャンパスで12月17日、本学との二重学位協定

ソシアムで予定している共同研究についても協議した。写真。

同校はキャンパス内に日本語教育センターを新設するなど、日本との交流に力を入れている。国際交流部長は「ベトナムと日本との関係が深まるなか、

関西外大との交流は貴重で、学生の相互派遣を活発にしたい」と語っていた。本学からの学生派遣に向けて、キャンパス施設の視察も今回訪問の目的の一つ。ダウンタウンキャンパスはホーチミン市の中心部に位置し、訪問当日は、文学部の卒業式と国際交流フェアが開かれていた。国際交流フェアでは、国ごとのブースに写真や民芸品などを展示、お国柄を示す音楽や料理を通じての交流も見られ、活気に満ちていた。

## 「知っておくと便利な用語集」 桜井研究室が編集

外国語学部・桜井博司教授の研究室が「関西外大生のための社会人に向けて知っておくと便利な用語集」(A4判60ページ)を完成させた。政治、経済、産業、企業、国際関係、科学技術、社会など約340語を集録している。学生の一般常識力の弱体化を克服するのが狙いで、学生・大学院生11人が編集に参加した。桜井教授は、授業の理解や就職試験準備などに役立ててもらいたいとしている。問い合わせは同研究室(中宮キャンパス研究室615号)



大学院ラテンアメリカ特別研究リレー講義が11月29日、中宮学舎であり、チリのパトリシオ・トールレス駐日大使が「チリを理解するには」と題し、昨年建国200年を迎えた同国の歴史や風土、経済や国民性などについて講演した。写真。公開講座を兼ねており、本学学生や市民ら約400人が聴講した。トールレス大使は昨年7月に着任したばかり。南北に長く細い同国は、太平

## 院生研究発表会 6人が日ごろの研究成果を発表、 白熱の討論

大学院生が日ごろの研究成果を報告し合う「院生研究発表会」が11月27日午後、中宮キャンパスで開催され、院生約20人、指導教員約10人が参加した。院生研究会は今回で第64回を迎え、発表者が前期課程・後期課程合わせて6人と、ここ数年では最多で、活気に満ちた発表会だった。写真。

体験となった。来春に修士論文の提出を控えた同2年の2人は、論文の方向性をまとめ発表、後期の2人(1年、3年)は、英語で口頭発表した。質疑応答では、フロアの教員から研究内容や論文のまとめ方について鋭い質問や指摘があり、白熱した議論が展開された。



**2011年度入学式 4月2日(土)**

- ▽第1回 午前9時30分  
大学院 英語キャリア学部 国際言語学部  
3年次編入学(外国語学部、国際言語学部)
- ▽第2回 正午  
外国語学部
- ▽第3回 午後2時30分  
短期大学部

## 日本と環境技術、地震対策 などで協力促進を訴え

政治的には、世界で初の選挙による社会主義政権樹立や軍事クーデターを過去に経験したが、今は中道右派が政権を握り、「政治的にも安定している」とし、経済面でも、銅など豊かな資源を背景に、「南米の優等生」といわれると報告した。日本との関係では、環境技術や地震対策、新幹線や長大橋などの建設プロ

洋とアンデス山脈、北部の砂漠と南極圏に囲まれ、地勢的な特徴もあって、他のラテンアメリカ諸国とは国民性も少し異なり、「さほど陽気でもなく、恥づかしがり屋。日本人と同じく働くのが好き。勇敢で、勤勉」と紹介した。

## トールレス駐日チリ大使がリレー講義で講演

大使は講演に先立ち、谷本義高・大学学長を表彰訪問、「チリ政府は教育に力を入れている。関西外大との交流も活発化させたい」と提案。谷本学長も「本学のスペイン語学科は国内で最大の規模であり、イペロアメリカ研究センターもある。チリの大学との交流を充実させていきたい」と応じた。

## PICK UP!!

■ゼミナール発表会@ほたに  
工夫こらし成果アピール  
国際言語学部恒例の「ゼミナール発表会@ほたに」が12月4日午後、約150人が参加して穂谷キャンパス教室棟であった。3、4年のゼミ生は、1年間の研究・学習成果を発表し、次年度以降にゼミに加わる1、2年生にそれぞれのゼミの魅力をアピールした。

まず、大教室に集合して、教務委員の三輪雅人教授が「ゼミナールはかけがえない友を得る場であり、学生時代で一番の思い出となるはず。ぜひとも、いずれかのゼミに参加してほしい。ただ、一度決めたゼミを途中で変更することはできないので、本日の発表をよく聞いて、選択してほしい」と強調した。



中国・蘇州科  
技学院の姚海・  
副学長と張曉  
華副教授(日本  
語学科主任)の  
2人が1月20  
日、本学を訪問  
した。穂谷キャン  
パスでは学  
内見学の後、小  
島泰典教授(アジア・太平洋交流セン  
ター長)らとの教員交流や同学院から  
の2人の交換留学生と面談した。



島泰典教授(アジア・太平洋交流センター長)らとの教員交流や同学院からの2人の交換留学生と面談した。中宮キャンパスへ移動し、谷本義高大学学長と懇談。同学院からの3年次学位留學(2年間)の受け入れについて基本合意。今後、細部をつめることになった。実現すれば、北方工業大、北京語言大に続いて3大目になる。懇談では、姚海副学長「写真中央」から書聖・王羲之の「蘭亭序」の軸が贈られた。

## 2大学(米)と互換協定 50か国地域の332校に

本学は米国のジャクソンビル州立大学(アラバマ州ジャクソンビル)、プレスビテリアン大学(サウスカロライナ州クリントン)の2大学と新たに単位互換協定を結んだ。米・プロビデンス大学との提携を取り止めたため、本学の海外単位互換提携校は1校増え、50か国・地域の332校となった。

ジャクソンビル州立大学 1883年創立。大学院生約1500人を含め、学生総数は約8500人。世界各地からのアクセスがよい。60か国以上から留学生を受け入れている。留学生は約2000人。1946年、学内に全米初のインターナショナルハウスプログラムの一つが建てられ、国際化が伝統となっている。



プレスビテリアン教  
会(長老派)によ  
って設立された私  
立のリベラルアーツ  
カレッジ。在籍学  
生数は1200人  
で、教員数は84  
人。34の専門分  
野がある。学生対  
教員の割合は13  
対1。平均13〜15  
人の少人数クラスで  
授業が行われて  
いる。95%の学  
生がキャンパス  
で生活している。